

平成27年12月定例会 広域交流対策特別委員会(付託)

平成27年12月15日(火)

[委員会の概要]

喜多委員長

ただいまから、広域交流対策特別委員会を開会いたします。(10時33分)

直ちに議事に入ります。

本日の議題は当委員会に係る付議事件の調査についてであります。付議事件につきましては、お手元に御配付の議事次第のとおりであります。

まず、理事者において説明又は報告すべき事項があれば、これを受けたいと思います。

【説明、報告事項】なし

七條政策創造部長

理事者からの説明及び報告事項はございません。よろしくお願いたします。

喜多委員長

これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

山田委員

私から、今年最後の委員会ということで聞きたいと思います。

2014年は観光にとって正にチャンス的一年ということで、四国霊場開創1200年、高速道路の全国共通料金制度導入、徳島ヴォルティスのJ1昇格等々がありました。知事もエポックメイクの年、いわゆる画期的な年ということを楽しみに言われておりました。2015年のこの観光の動向、これをきちっと総括するのもこの委員会の仕事でありますので、そういう観点で質問をしていきたいと思っております。

まず、観光庁が宿泊旅行統計調査を毎月実施しております。9月としては、平成19年の調査以来、全国的には最高となっていると報告されておりますけれども、徳島県は平成27年9月の延べ宿泊者数が、第二次速報値ですけれども、47都道府県中最下位の18万9,390人、前年同月比マイナス29.8パーセントと全国最低になっております。9月という時期的なこともあるんで、本県が最も強い8月はというと24万7,410人、これもまた全国最下位、対前年同月比でマイナス30.4パーセントの落ち込みという状況であります。まず、この観光庁の9月、8月の数字はこれで間違いはないですか。

新居観光政策課長

ただいま山田委員から御紹介のありました数値につきましては、あくまで、委員からも御指摘ありましたとおり速報値でございますけれども、そういう数字を御報告いただいているところでございます。

山田委員

そういう状況なんですね。たしか前回のこの委員会で、今年の1月から6月における延べ宿泊者数は、新居課長から105万6,270人、前年に比べて13.5パーセントの減だと報告を頂き、この時点では47位は秋田県で徳島県は46位という状況だと言われました。そうしたら、今、8月、9月を紹介したんですけれども、1月から9月までの延べ宿泊者数の総計はどうなっているのか。また、全国の中でどこに位置しているのかということについても伺います。

新居観光政策課長

平成27年の1月から9月までの延べ宿泊者数の速報値でございますが、現在168万4,130人ということで、残念ながら全国的に見ますと47位という状況でございます。

山田委員

47位という状況なんですね。各速報値ですけれどもつぶさに見ていったら、1月から3月まではたしか奈良県がまだ下におりました。しかし今年度、4月から9月まではどの指標を見ても徳島県が全国最下位という状況になっているわけですけれども、まず、前回の時点で13.5パーセント減った理由はと聞いたら反動減だと、こういうふうに言われました。とても反動減だけでは説明がつかないと思うんですけれども、この理由についてはどうふうにお考えなんですか。

新居観光政策課長

山田委員から、原因についてどのように分析しているのかという御質問でございます。

まず、反動減というのがやはり大きいと思っております。前回も御説明させていただきましたが、平成25年、26年と、年々24パーセント、27パーセントと非常に高い伸び率で徳島県の観光宿泊は伸びておりましたので、それに比べて平成26年、先ほど御説明のありましたエポックメイクの年に比べればどうしても率が下がる、これはやはり一つ大きな原因としてあると思っております。それから、特にこの夏で比較させていただきますと、やはり昨年夏は全国規模、それから国際規模のスポーツ大会がかなりございました。例えば、日韓ナショナル交流バドミントン大会でありますとか、全国中学校の卓球大会とかがありまして、今年は夏だけで見ますと、そういった大会が少なかったということもあると思います。ただ、コンベンションにつきましては現在集計途中でございますので、より詳細な分析はこれからと考えております。

あともう一つ、私ども懸念しております大きな問題といたしまして、実は平成26年4月1日に貸切バスの運賃料金制度が大幅に改正となりました。以前の料金体系から時間と距離を計算していく方式となり、これが非常にバス料金の高騰を招いております。こういったものについて平成26年度中は経過措置があったんですが、平成27年度当初からは一部のものを除きまして経過措置がなくなってしまうと、バス料金が非常に高騰しております。こういった影響を受けまして、旅行会社さんが組んでおりますバスツアー商品が大きく減少しているということもございまして、この1月から9月、特に委員が御指摘なさいました夏の部分への影響は大きかったのではないかと考えております。

山田委員

一応理由は述べられたんですけども、このバスの料金や距離制度というのは徳島県だけかというふうなことを当然素朴に思う。ほかの県も同様にこういう制度があるけれども徳島県はバスの依存率が高いということだと思んですが、もう一回そこを丁寧に御答弁いただきたいのと、あわせて、この1月から9月、全国最下位になっているということですから、46番の県はどこで、どれぐらいの差があるのかということも併せて御答弁いただけますか。

新居観光政策課長

貸切バス運賃料金制度につきましては、先ほど説明いたしましたとおり、平成27年度から直接影響が大きくなっているというところがございます。確かに徳島県は交通、JRとかバスとか飛行機といったところから申しますと、やはり二次交通が弱いということもありまして、バスツアーというのは大きなものがございます。こういったことも受けまして、我々、例えば西部の旅行業者の皆様とか旅館業界の方たち、それと関西のバス旅行会社等々にもちょっとヒアリング調査などをしてみましたが、今年の夏は特にバスが減っているというようなお答えを頂いているところがございます。そういったこともあり、冬に向けまして、旅行会社向けの貸切バス助成の特別加算なども行いまして、少しでもこの現状を打破するべく頑張っているところがございます。

また、先ほど御指摘のありました46位でございますが、これは奈良県でございますが、あくまで速報値の足し上げにすぎませんが、現在のところ199万970人という数字でございます。私どものほうとは約30万人の開きがあるというのが現状でございます。

山田委員

奈良県と30万人の開きがあるということでした。そして二次交通が弱いという点を課題として指摘されました。この点は、経済委員会で岡田委員が度々指摘されている問題なんですけれども、そのことについても後で触れていきたいと思えます。

そうしたら、去年はいわゆるエポックメイクの年と言われる状況まで作ったけれども、残念ながら2015年はこの数字だけ見ると……。好調を維持して最下位から着実に順位を上げていく県の手腕が正に問われた年でもあったわけですけども、いろんな努力をされていることは経済委員会等々でも聞いておりますが、残念ながらこういう冷厳な事実になっている。そうしたら、これがいわゆる上向きに変わるというのは、どういうところを想定しているんですか。今年中は無理で、これから前の時に言われた「冬の徳島」とくたく満載事業というの也被されて、効果を発揮していくわけですけども、4月以降ずっと全国最下位が続いてきた徳島県はこの事業によって改善されるんだと、こういうふうな見通しなんでしょうか。

新居観光政策課長

山田委員から、今後の見通しということで御質問いただいたところがございます。

委員からも御指摘ございましたように、少し前になりますけれども、前回の委員会でも

こういった状況を受けまして、9月補正でお認めいただきました「冬の徳島」とくたく満載事業というのを展開しております。

そして、先ほどの二次交通のバスにつきましてですが、議会でお認めいただきまして、10月の半ば過ぎぐらいからですが、事業に着手させていただいております。貸切バス助成の加算のおかげで、鳴門の公園のバスの駐車台数などをチェックしているんですけども、これが11月、やっと効果が上がってきて、前回よりも前の年を上回る数字が出てきております。また、吉野川オアシスの観光バスの駐車台数につきましても、夏の間はちょっと調子が悪かったんですけども、減り具合に少しブレーキが掛かってきたかというようなところがございます。これから冬に向けまして、個人向け、それからツアー造成についても力を入れておりますので、そういったことで、とにかくできる限りの対策を講じていきたいと思っております。

#### 山田委員

見通しといってもなかなか難しいと思うけど、今そういう取組が始まっていると。次の2月議会でもその状況についてまた聞いていかないといけないなと思っておりますけれども、いずれにしても、2015年はエポックメイクの年というところから見たら、非常に厳しい状況になっている。今その一端が示されました。観光振興基本計画で、平成30年度に280万人という目標を掲げられておりますけれども、今回はトレンドとして下がっているけれども、280万人のこの目標数値は十分にクリアできると、こういうふうに見ていいんですか。

#### 新居観光政策課長

現在、徳島県観光振興基本計画(第2期)におきまして、平成30年に宿泊者数300万人という目標を掲げさせていただいているところでございます。今のところ宿泊者数、伸び悩んでいるところでございますが、今年の3月にJR6社と自治体が共同で実施いたしますデスティネーションキャンペーン、これが14年ぶりに四国で開催されることが決定いたしました。平成29年の4月から6月の開催でございますが、これを大きなチャンスとして、県下の市町村の皆さん、それから観光協会や観光関連事業者の皆様方にお声掛けをさせていただきまして、現在、それに向けての準備を進めているところでございます。例えば、観光素材の発掘とか磨き上げ、それから先ほど申しました二次交通の整備とかいろいろ課題があつて、それを平成29年に向けて整備していこうとしているところでございます。とにかくいろいろなことにチャレンジさせていただきまして、観光誘客促進のために、目標達成に向け努力を続けていきたいと思っております。

#### 山田委員

まだ速報値の段階なので、確定値になってきたら状況が変わるかなと思うんですけども、変わったとしても、この大きな流れはなかなか難しいだろうなと思いつつ、これはずっと注視していきたいと思っております。

それとの関係なんですけど、一方で、外国人の延べ宿泊者数は対前年を上回るという状況になっています。これは、長尾委員の質問の中でも知事から答弁がありましたけれども、改めて1月から9月までの状況、そして全国順位等々、御報告いただけますか。

藪下国際戦略課長

今、山田委員から、本県におけます国際観光についての御質問を頂きました。

本年の1月から9月までの数字につきまして改めて述べさせていただきますと、速報値でございますが、現時点で4万1,610人ということで、昨年度同時期が2万4,100人でしたので、大体72.7パーセントぐらいの伸びを示しているところでございます。それから全国順位につきましては、ちょっとまだ途中ということもございまして、他の都道府県の分について特に集計を積み上げているところではございませんが、去年は年間で45位でしたので、同じぐらいの順位になっているのではないかと推測されます。

山田委員

月別のを見たら出てきますよね、徳島県がどれくらいかという数字。だから、恐らく45位前後で推移するだろうということなんですけれども、4万1,000人余り。これ全体から見たら、徳島県は一体どれくらいになるのかという点と、観光振興基本計画(第2期)の平成30年度の目標数値、外国人の誘客数、入り込み客数が10万人で延べ宿泊者数が8万人だったかな、それとの関係で、その見通しも併せてちょっとお答えいただけますか。

藪下国際戦略課長

延べ宿泊者数、今申しましたように4万1,610人という数字でございます。全国を見ますと、これに当たる数値が約4,916万3,000人、切り上げました。割合で申しますと、大体0.08パーセントという形になっております。

喜多委員長

小休します。(10時51分)

喜多委員長

再開します。(10時51分)

藪下国際戦略課長

第2期でございます。今、本県では、平成30年でございますが、宿泊者数については8万人という形で設定させていただいております。それから見通しにつきましては、今年目標値が5万人、平成30年が8万人ということで、毎年1万人ずつの上乗せをしていくというような目標設定をさせていただいております。これにつきましては、特に国際観光でございますので、国内だけでなしに、外国との国際情勢とかいろいろな要素が非常に直接的に反映してくるところがございます。中国の景気減退とかもございましたが、今のところ順調に伸びているという状況もございますので、達成できるように精いっぱい頑張っていきたいと考えているところでございます。

山田委員

この答弁も引き続き注目しながら見ていきたいと思っております。

それと二次交通の問題で、先ほど新居課長からも話がありました。これは先ほども言ったように経済委員会でも議論があったところなんですけれども、その上でまず聞きたいのは、東京便の8月までの数字、前回の時に約5パーセント減と報告されましたけれども、直近の数字はお分かりですか。分かったら教えてください。

喜多委員長

小休します。(10時53分)

喜多委員長

再開します。(10時53分)

岡本交通戦略課長

山田委員より、東京便の利用状況について御質問いただいたところでございます。

平成27年度の上半期、4月から9月までの延べということになりますけれども、対前年比で96.3パーセントという利用状況になってございます。10月につきましては、速報値で前年比105パーセントという報告を受けてございますので、4月から10月までのトータルで見ますと、2パーセントから3パーセントぐらいの減というところまで回復してきているという状況でございます。

山田委員

そういう状況だということですが、さっき二次交通の問題でバスのことが議論になりました。国内客に徳島県へきちっときてもらう。また、主要な駅からそれぞれの観光地へ出掛けてもらおうと。そしたら、素朴な疑問なんですけれども、徳島阿波おどり空港、今精査をしているということですが、おおむね20億円使う、それも県単独のお金でということですが、このバランスですね。バスにしても、またマイカー、これは前に藪下課長が経済委員会の中でも増えてきていると。徳島県の場合はアメリカ人を中心とした欧米の方もかなり入っていて個人客が多いという状況もあるので、そういうところの整備とか、今言っていたバス、JRの弱さを補完、これは後で聞きますけれども、こういう多面的な交通手段によって本県を浮揚させていく、交流人口を増やしていくということは重要なんですけれども、徳島阿波おどり空港に20億円、少々精査されて減ったとしてもかなりのお金です。二次交通の充実と、この空港に対しての特化というのをどういうふうに考えていいのか。政策のバランス、整合性はとれているのかということについても聞いておきたいと思います。

岡本交通戦略課長

徳島阿波おどり空港の機能強化と二次交通の取組について御質問いただいたところでございます。共に大事な課題であると思っております。徳島でございますといろいろ公共交通機関もございまして、首都圏からの足ということになりますと、やはり航空路が中心になるということもございまして。地方空港への海外からのお客さんも増えている状況でございますので、まずはその玄関となります徳島阿波おどり空港への人の流れを増

やすことが大事だと思ってございます。また、徳島阿波おどり空港にきていただいたお客さんが県内をいろいろ回っていただきやすいようにする、そういう二次交通の取組も非常に大事と思ってございますので、共にしっかり取り組んでいく必要があると思ってございます。

山田委員

ここも腰を据えてじっくり議論したいんですけれども、これはまた別の機会に。ただ、今岡本課長から話があった面で見たら、やはりちょっとバランスを欠く。5年前に整備されているわけですから。それを有効活用していくという格好で高知空港なども行っていきます。そういう状況から見たらどうかな。全体のパイからしたらどれぐらいになるんだということも問題になると思いますので、これはまた聞いていきたいと思います。

次の質問に移ります。四国新幹線の問題。県内では理解や機運に課題を残すとしておりますけれども、整備計画への格上げに向けた調査実施を国に求めて、地元から声を上げる必要があると、こういうことがるる言われております。

まずお伺いしたいのは、新幹線が整備された地域とされてない地域では、計り知れない格差があるという議論があって、例えば5大都市から3時間圏内に徳島県は入っているのかどうか。それと、頂いたパンフレットの中には、徳島駅からの3時間到達圏内、平成25年3月31日の時刻表ベースと、開業後増加地域と現在の3時間到達圏域というふうな指摘がありますけれども、私がいろいろ聞いてみたところ、徳島駅からバスで新神戸まで出て新神戸からということになったら1時間圏内でももっと行けるし、このシミュレーションは一体どういうふうなことを前提にされているのかと。3時間圏内ということになれば、相当広い範囲、今でも行けてるんじゃないかと。それを過小評価しているんじゃないかという声もありますけれども、その辺も含めてどうですか。

岡本交通戦略課長

山田委員より、今お話のございました調査における3時間到達圏域というところでございますけれども、この調査におけます3時間到達圏域というのは、JRを利用したの3時間圏域ということで整理をさせていただいているところでございます。

山田委員

JRを利用すると言うけど、今大阪方面、全くないとは言いませんけれども、圧倒的多数はバスですよ。そんなもの当たり前じゃないかと。そういうことを度外視して、まず計画作ってJRだけで比較しているのもどうかと思います。

同時に、多くはないですけど市民の皆さんとも対話する機会があって、よく質問を受けます。新神戸まで現在の岡山経由で行く場合と高速バスで行く場合では、所要時間についても、また費用についてもやっぱり全然違うだろう。それが四国新幹線ということになったら流れ変わるんかと。現在のバスと比較して所要時間と費用はどのように短縮されるのかということをよく聞かれるんですけれども、これについて御答弁いただけますか。

岡本交通戦略課長

四国新幹線の整備による関西方面への移動の所要時間、また費用というところで御質問いただいております。

所要時間につきましては、お話ございました四国鉄道高速化連絡会のほうでさせていただいた調査でございますけれども、徳島から新大阪まで、徳島からダイレクトに大阪につながるルートでございますと、40分という試算がされてございます。また、御質問ございました費用につきましては、まだそこまで詳細なものが決まっている段階ではございませんので、そういったところの調査というものは、今の時点で明らかになってはございません。

山田委員

現在、徳島から新神戸までバスで120分弱です。値段にして3,500円ですか。それが、岡山経由で行ったらJRで160分、値段にして1万260円と、現在はこんな状況です。これ、四国新幹線ができれば更に値段が上がります。ということになったら、本当に使うのかということと、この四国新幹線、徳島県民にとってどんなメリットあるいはデメリットがあってということは、岡本課長の部局を中心に検討されているんですか。ここはちょっと明確に答弁下さい。

岡本交通戦略課長

四国新幹線のメリットということで御質問いただいております。

まず、移動時間の短縮ということで、大都市圏へ徳島から行きやすくなるということもございまして、大都市圏から徳島に足を運びやすくなるということもございまして。北陸新幹線や九州新幹線などの事例で明らかになっておりますとおり、そういう交流人口の拡大によります地域経済の活性化、観光の振興というところには非常に大きな効果がございまして、ひいては東京一極集中の是正といったものにも非常に大きく寄与すると考えてございます。

これ以外の点でも、山陽新幹線のリダンダンシーの確保でありますとか、首都直下型地震などにおいて、関西が首都機能をバックアップできる二眼レフ構造の国土構築、こういった国土強<sup>じん</sup>靱化の観点からも非常に重要なインフラであると考えてございます。

山田委員

リダンダンシーということも盛んに言われております。だけど、リダンダンシーの前に南海トラフ巨大地震、これでしょう。いやいや心配ない、ここは強固だからと言われるかもしれませんが、やはり県民目線で考えたら、今の答弁はとても納得できないと思います。

さらにちょっと質問をして、このパンフレットを見てになるんですけれども、今検討されているケース3ですね。1兆5,700億円。恐らく更に事業費が膨れるのは必至だと思うんですけれども、3分の1が地元負担というふうに言われています。徳島県の財政負担、県民一人当たりの負担額等々は検討されているんですか。

岡本交通戦略課長

四国新幹線の費用負担ということで御質問いただいております。

委員からも先ほどお話ございましたけれども、整備新幹線の整備方式ということで、新幹線の施設につきましては、独立行政法人鉄道建設運輸施設整備支援機構によりまして建設保有をされます。JRはその施設を借り受けて新幹線を走らせると。そういった中で、貸付料を鉄道運輸機構に支払う形で公共事業として整備をされるというものでございます。その建設費につきましては、整備新幹線の貸付料と公費によって賄われてございまして、貸付料を除いた公費について、3分の2を国が、3分の1を地元が負担するというスキームになってございます。また、その地元負担につきましては、国からの交付税措置もなされている状況でございます。

徳島県の負担がどうなるのかという御質問を頂いておりますけれども、今の時点でまだ基本計画にとどまっているという状況で、具体的なルートも十分に確定していないという状況もございまして、何より貸付料の取扱いというところで地元負担でありますとか、公費の負担というところが非常に大きく変わってまいります。そういったところ、まだまだ未定という段階でございますので、現時点で負担額の試算というものは行えないと考えてございます。いずれにいたしましても、基本計画にとどまっております四国新幹線、この実現に向けて、まず整備計画に掲げられるよう機運醸成を図るとともに、関係自治体、経済界とも十分に連携をいたしまして、国に対して働き掛けを行ってまいりたいと考えてございます。

山田委員

新幹線計画は1969年の新全国総合開発計画、日本列島改造論を反映して1973年に基本計画が策定されて以来、調査が行われてきまして、事業のめどがつかないで2008年度、ついに予算執行が中止された。そして、現在また検討に向けていろいろという状況になっていると聞きます。これらについても詳しく聞きたいし、ケース3の費用対効果が1.03。さつき北陸とか北海道とか出ましたけど1.1ですね。それよりも更に低い。いったい計画にどれだけの信憑<sup>びよう</sup>性や科学性があるのかという点も疑問です。

それとの関係でちょっと気になるのが、高知県の岩城副知事が並行在来線について、新幹線の導入はまだ議論段階だが、並行在来線の改良の棚上げに懸念との発言をされております。実は、2012年3月のJR四国社長のインタビューでも、在来線は大体第三セクターがやると。都市間の輸送は新幹線、都市圏内は在来線で役割分担とも述べられているようですけれども、こういう事実はあるんですか。実際、九州新幹線等々を見てみたら、在来線からのJRの撤退とか特急の減便、料金の大幅値上げ、そういう県民にとっては認め難いような影響も出ているわけですが、このあたりの声はどういうふうな状況になっていますか。

岡本交通戦略課長

山田委員より、いわゆる並行在来線の問題について御質問を頂いております。

先ほども御答弁させていただきましたとおり、四国新幹線につきましては、基本計画の段階にとどまっているというところでございまして、具体的なルートについてはまだこれからというところでございます。これまでのほかの整備新幹線の事例を見ておきますと、

ルートにより並行在来線をどうするかという問題が起き得るということは十分承知をしているところでございます。具体的なルートの検討段階に入った際には、並行在来線の問題につきましても、JR四国、関係自治体と協議を重ねてまいりたいと考えてございます。

山田委員

それとの関係で、ちょっと在来線の改良状況についても聞いておきたいと思います。まず電化率、複線化率について、現在の全国と徳島の状況を端的にお答えください。

岡本交通戦略課長

手元でございます資料が平成25年4月のものでございますけれども、全国平均、電化率につきましては55.7パーセント、複線化率が32.9パーセントという状況でございます。県内の状況でございますけれども、電化、複線化は共にまだ行われていないという状況でございます。

山田委員

行われていないんですね。JR四国関係では電化率が27.5パーセント、複線化率が5.9パーセントなんです。これを何とか改良してくれという声がほかの県からも上がっています。徳島県はありません。それが二次交通の一つのネックになっているのも事実です。その面でこのパンフレットを見ていたら、メリットばかりが強調されているんです。今の岡本課長の答弁もそうでした。デメリットはないのかと。県民に正確な情報を知らせるということで見たら、検討をされて、本来ならここにやっぱり記すべきでしょう、県としても。実は、夢の架け橋ということで展開したわけですがけれども、ストロー現象あるいはバキューム現象、あの鳴門海峡大橋によって徳島の地盤沈下が様々な形で……。もちろんメリットがないわけじゃないですよ。しかし、そういうふうなこともありました。それだけに、今の時点でデメリットについてもきちっと精査をして県民に報告もする、これが当然の姿だと思うんですけれども、その辺はどうですか。

岡本交通戦略課長

山田委員より、四国新幹線のデメリットということで御質問いただいております。

デメリットでございますけれども、先ほど委員より御質問いただいております並行在来線の問題が起り得るといこともございますし、費用負担も少なくない金額がかかると思っております。ただ、先ほどより御答弁させていただいておりますとおり、まだ基本計画にとどまっている段階でございます。不確定な状況が多いというところでございます。まずは基本計画にとどまっている四国新幹線を整備計画に格上げをするということで、国政における議論の遡上<sup>そ</sup>に上げていく必要があると思っております。こういった議論の遡上<sup>そ</sup>に上げていく中で、そういった様々な点につきましても、きちんと御説明をしていく必要があると思っております。

山田委員

今、デメリットについてもこれからの議論の中で県民に説明していくということをお

れました。これは当然四国のほかの県でも議論になっているところです。だから、そういう立場でこのパンフレット等々も見直していただいて、デメリットも含めて県民的な議論にかけていくということが必要なんで、そのことを是非ともお願いしておきたいと思いません。

新幹線の最後の質問で終わりたいと思うんですけども、予算ということで見たら、今まで四国新幹線関係でどれだけ使ったのか。今年度も検討費ということで上がっているようですけれども、今年度は幾らあったのか。さっき言ったように、この1973年の基本計画以来いろいろやられてきていますが、それについて分かる範囲で教えてください。

喜多委員長

小休します。(11時13分)

喜多委員長

再開します。(11時13分)

岡本交通戦略課長

四国新幹線の予算の関係ということで御質問いただいております。

国のほうでなされてきた調査について、これまでどれぐらい予算がかかっているかという点につきましては、ちょっと今手元に資料がございません。申し訳ございません。

今年度の予算に計上させていただいております四国新幹線導入促進事業でございますけれども、こちらにつきましては295万円を提案させていただき、お認めいただいているという状況でございます。こういった事業を進めることによりまして、四国新幹線の機運醸成、さらには国への働き掛け、こういったところを様々な関係者の皆様と連携してしっかりと進めていきたいと考えてございます。

山田委員

一応これで質問を終わりたいと思うんですけど、四国新幹線の問題、また観光行政の進め方については、引き続き2月議会でも質問していきたいと思えます。

岡田委員

山田委員から、経済委員会の続きの話をちょっと振っていただいたんですけども、実は経済委員会で答弁をもらう時間がなかったのので、再度確認したいと思えます。

二次交通について、先ほど説明もありましたけど、平成29年にはデスティネーションキャンペーンということで、JR四国さんが主になって観光政策を行うキャンペーンがあると。ただし、経済委員会でもお話ししたのは、鳴門駅から観光地に行く方法、徳島駅から観光地に行く方法、そのルートがちゃんと整っているのか。JRさんが主になるということで、徳島駅であったり鳴門駅であったり、それぞれの沿線の主要な駅からの観光の足が確保できているのかというようなお話をさせてもらったんですけども、それについて、先ほど課長からある程度今年の10月からやっているというお話があったんですが、それを含めると、平成29年度までには各駅からの観光ルートの開発というか、そのルートをつな

げる二次交通の確保ができるのかどうか、その取組についてお話しいただけますか。

#### 新居観光政策課長

岡田委員から、二次交通について御質問いただいたところでございます。

今、委員から御指摘ありましたように、徳島県の観光の中で二次交通というのは大きな課題でございます。先ほども御説明いたしました平成29年の4月から6月のdestinationキャンペーンというのが、徳島県においては一つの大きな目標ということで、いろんな課題に取り組もうとしているところでございまして、その中でも、とりわけ二次交通というのがやはり心配な部分でございます。現在、「冬の徳島」とくたく満載事業ではレンタカーとのタイアップということで、旅行ツアーの造成等を実験的にやっているところでございます。また、JR四国と協議をいたしまして、近々ですが、鳴門駅から観タクンと言うんですけれども、タクシーとJRとの着地型商品と申しますか、そういったものも発売されると伺っているところでございます。

私どもといたしましては、平成29年のdestinationキャンペーンに向けまして、県内の観光地と観光地を結んでいくためにどういうものが一番よいかというところ、あと、当然観光として、商品として全国のエージェントに売っていく必要がございます。例えば来年の春の商品であれば、最低でも半年前から売っていかねばいけないといった先を見越しての作業をしていかなければなりませんので、現在、来年度の事業ということで、事業化に向けていろいろと検討を重ねているところでございます。できましたら、来年度は5月11日に香川県で全国販売促進会議というものがございまして、今の予定では全国から700人の旅行エージェントをお招きしての大プレゼンテーション大会がございまして、その場において、また10月にpredestinationキャンペーンを予定しておりますが、そこに向けて、二次交通の何らかの新たな提案をしていけないうこと、一生懸命交通戦略課とも共同で考えていっているところでございます。

#### 岡田委員

ということは、観光客の方がきて駅に降りたときに、どこへでも行ける環境がある程度整いつつあるというか、それを積極的に考えてくれているという状況なのかなと思います。外国人と日本人の場合とでは若干違ってくるんですけど、同じ課題なんですね。結局、二次交通というか主要な公共交通機関、例えば飛行機もそうですけど、飛行機であろうがJRであろうがバスであろうが、その駅まではつながっていると。それも県外、外国も全部つながっていると。でも、そのつながっている所からきて最終目的地に行こうとしても、一番力を入れないといけない徳島県の所で全然つながっていないという現実がある。いくらでもすごい観光地があるから、いい物がいっぱいあるからきてくださいと言っても、行く方法がないのにどうやって売り込むんよというのをずっと疑問に思っています。先ほどタクシーの活用とかレンタカーとのタイアップとか言ってたけど、レンタカーもこの頃非常に厳しくて、乗った所と返す所が違ったらその分ペナルティー料金がかかってきたりする。その部分もいろいろ研究してもらわないといけないと思うし、タクシーの場合はこの間、あるタクシー会社さんが飛行場から一定料金で行きますよという提案をされてはいたけど、料金が読めるので、観光客にとって非常に活用しやすいのかなと思いましたね。

本当に徳島県、観光客、先ほどの話でも全然増えていない。何かイベントがある年にはお客さんきてくれている、それは逆に言うと、何かをすれば必ず観光客が増えるというか、集客ができるということなので、是非取り組むべきだと思うし、平成29年度にある一つの大きなチャンスをつかんでいくためにも、まだ日はあるんで、着々といろんな部分を研究してもらいたい。分からない町に行って飛行場で降ろされてどうするんよ、徳島の駅で降ろされてどうするんよというところで、京都とかだったら、うまくレンタサイクル、自転車を活用したりして周遊を促している所もあるし、観光客が行っている所を見せてもらったらそれぞれ二次交通ってかなり進んでいる。いろんな方法、低コストな部分からお金をかけて行く部分であったり、また歩いて行く方だったら散策路をちゃんと整備してありますよね。そこのところがちゃんとできていないことが、もう一遍行こうかということにつながる理由にもなっているのかなというふうに思うので、是非チャンスをつかんでいくためにも下準備をちゃんとして、受入態勢をきちんと整えて、徳島にきた方が、徳島に前に行った時には困ったけど、今回すごくよくできてたと言ってもらえるような体制づくりに力を入れてもらいたいんですけど、いかがでしょうか。

#### 新居観光政策課長

岡田委員から、非常にいろいろな御提案を頂いたと思っております。

我々も今御提案いただきましたように、例えばレンタサイクルからバスまで、確かに安価でやれるものからお金がかかるもの、それから地元の方のお力を借りなければならないこととかいろいろあると思いますので、実施に向けまして、地元の方々といろいろとお話しさせていただきまして、とにかくできるところから取り掛かっていきたいと思っております。2年先、そうは言いながらも時間はないと思っております。今、西部総合県民局、南部総合県民局とも一緒になって、一生懸命地元の声を吸い上げようとしておりますので、頑張っていきますので、どうかお力を貸していただければと思います。

#### 岡田委員

第一次の目的が平成29年というだけであって、今日からしてもらって全然大丈夫なんで、是非今日からしてもらって、取組は一日でも早いほうがいいですから。いろいろ調査が必要なこともあろうと思うので、調査をしながら、できることを着実に、確実に進めてもらって、観光客目線に立って、観光客の人が移動しやすい徳島県内の周遊ルート、皆さん周遊ルートと言うんですけど、周遊できないんですよ、正味言って。

それと、鳴門市内は鳴門市内の観光ルートを作っている。でも、鳴門市から徳島市内にきて、眉山を経由してかずら橋に行きたいとなったら、乗り物を乗り換えたり、いろいろ調べ直しをして足を確保していかなければならないというところがある。やはりそのところの不便さであったり、Wi-Fiが整っているからインターネット環境はあると言うなら、もっとそこを全面的に出して情報発信を確実にして、例えば、何時何分に鳴門を出たらかずら橋に何分に着けるといような、この頃移動のサイトとかたくさんあって、都会に行くと電車の移動とか、どこから入ると何時ぐらいに着くよとか、何時の列車に乗れますよというところまで出てくるので、皆さんそれに慣れていて徳島にやっつけられる。今2時だからかずら橋に何時に着くのかというようなことが調べたら分かるサイトとか、

やっぱり不便なら不便なりに、それを活用してできるようなものをいろいろ作ってもらわないと。補えるところから補える知恵を出してほしいんですけど、いかがでしょうか。

藪下国産戦略課長

環境整備等も含めた御質問だと思います。

例えば、先ほど委員からもお話ありましたWi-Fiの関係とかにつきましては、本県、この7月から環境整備ということで民間観光事業者とか飲食店等、民間を対象といたしました助成制度を始めさせていただいたところがございます。Wi-Fiなどにつきましてもたくさん申請いただいておりますし、アクセスポイントとかも順次整備していただいておりますが、当然十分ではございません。これからも続けていく必要がございますけれども、民間事業者の方々にもある程度のそういった認識をしていただいて、環境整備が必要であるということで順次申込みをしていただいております。

それから多言語表記につきましても同様でございます。看板とかメニュー、サイン、こういったものにつきまして、利用者の目線で、外国人の方々の利便性が向上するということとさせていただきます。助成制度がございまして、こういった趣旨を御理解いただいて、申請いただいて、順次整備をしていただいているというところがございます。引き続き、外国人目線で、外国人の方々がまた徳島にきたいと思っただけのように、よりよい旅行をしていただいてリピーターになっていただけるように、順次整備に努めてまいりたいと思っております。

岡田委員

もう一つ質問した、移動時間を明確に表示できるような情報発信はどうなんですか。

藪下国産戦略課長

移動時間につきましては、アプリも今後整備していきたいと思っておりますし、おられる所から目的地までのルート検索もしていただけるような形で整備させていただきたいと思っておりますので、こういった部分についても、順次御利用いただけるのではないかと考えております。今年度中の整備に努めているところでございますので、御理解いただきたいと思っております。

岡田委員

日本人の方も外国人の方も、観光地に行ってまずどこへ行くかというのは全てスマホで検索するというのが通例で、先ほど課長が言われたように、観光ガイドアプリじゃないですけど、徳島県のアプリを作ってくださいと。そこに入ってワンクリックしてもらったら、徳島県どこでも移動すること可能だよと。ただその可能なルートがバスであったり車であったり、あと自転車であったりとそれぞれ違ってくるんですけど、それならそれで、例えば自転車で20分かかかるよとか、車でだったら3分で行けるよとかいう表記をすれば、県外からおいでしてきた観光客、また地元の方でもそうなんですけど、その探している方が選ばれるので、私たちは情報発信をしてもらっただけでいいと思うんです。その情報量が多ければ多いほど、皆さんにとって選択肢が増えるということなので、それが非常に活用される

ことにつながっていくと思いますので、是非その部分、自分たちが使って便利だなと思うようなアプリがあれば、その機能をできたら取り入れてもらいたいと思います。旅行の方は皆さん、限られた時間の中でそれぞれ行きたい所を計画立てられるので、ドイツ館だったら何時から何時まで開いているかとか、この頃ネットで調べたら閉まっていますというのも表示してくれるものもあるんですね。例えば、そのお店を調べた時間が遅ければ、ただ今閉店中とかいうのが出てくるような、そこまで情報提供してくれている至れり尽くせりなネットがある。ドイツ館なら、今閉まっていますけど明日の朝10時から開きますということまで出てくる親切な表示まであるんですね。観光客の方、また地元の方にとっても、今行こうかなと思って調べて、今開いていたら行きたいと思うし、あさって行こうと思ってるんだったら、あさってが開いているかどうかを調べればいい話なので、やはり調べている人にとって情報量が多ければ多いほど選択肢として選んでもらえることになるし、こようと思ってもらえるきっかけになると思います。本当にいろいろインターネットの環境は進んでいますので、是非それらを研究されて、便利なアプリを作ってもらって、徳島へ行くならこのアプリというような形でしていただければと思うし、またそれに併せて災害の情報も出てきたらもっと有り難い、それはここの分野ではないのであれですけど、いろんな部分も併せながら研究してもらいたいと思います。これは強く要望しておきますので、お願いしたいと思います。

それで、最近デービット・アトキンソンさんの本を読んでいて、何で観光観光って言うのかというと、結局観光することによって人が交流したり、移動したり、宿泊して御飯食べてというところで経済効果が生まれる。そういう部分で、日本政府も観光に力を入れようと躍起になっているわけなんですけれども、特に見に行くものがある所に行っているのが現実であって、日本の観光戦略というのもまだまだ低いというような話が書かれておりました。一人当たりの生産量掛ける人口がGDPになるから、日本の人口が減ったらGDPが減るという話で、今の日本のGDPを維持しようとしたら人口を増やさないとはいけないうし、人口がなかなか増えないんだったら交流人口を増やしていきましょうというのが観光政策の裏側にあるのかなと思うんですけれども、そこで勝ち組になっている所は、もともと観光資源があって投資をしていた所なのか、それとも後発隊で、努力をしようとしてやり始めた所なのかというところで、それぞれの観光戦略に差が出てきていると思うんです。

何を言おうとしているかということ、徳島県として、再度観光資源のハード面に力を入れて取り組んでもらいたいということです。というのも、今ちょうど国道11号の木を伐採してくれているんですね。そうしたら、夏のあたりとかは草がぼうぼうになっていて、木も茂って、何かものすごい見苦しかったんですけど、木の伐採をしてもらって、草を刈ってもらったらすごいすっきりしてきました。やはりその一手間を掛けてくれることによって……。ただし財源がかかるので、そんなのまでは余裕がないという話も当然あるかと思うんですけど、観光地として徳島県が本気で県外から人を呼び込もうとするんなら、もう少し自然を自然のままに放っておくんじゃなくて、自然に手を入れて、自然を管理することによって、もっとすばらしい自然を作ることが必要だと思うんですけど、いかがでしょうか。そのあたりの観光戦略はどう捉えていますか。

## 新居観光政策課長

岡田委員から、自然を生かす観光というのはどうなのかという御質問を頂いたところでございます。

確かに徳島県、特に県民の皆様に徳島のいいところとは聞いたら、豊かな自然というふうにまず出てくると私も思っているところでございます。ただ、委員御指摘のように、我々はいいと思っても、私たちの日常空間としての自然ということで、確かに山でも川でも海でもそうかもしれませんが、外から見て、ちゃんと観光客のために整備ができていくのかというところになりますと、これはやはり市町村レベルにおきましても、まだまだの部分もあるかもしれないと思っているところでございます。

観光は地方の光を見るというものでございまして、その光というのが徳島は何なのかと。例えば、先ほどいろいろありましたけれども、阿波踊りといったイベント系のもも確かに地方の光でありますし、海や山、川という自然のよさも光だと思っております。その光をいかに見せるかというところで、ハード整備が必要ではないかという御指摘でございしますが、場所によってはそういうものが必要な部分もあるかもしれません。地元の方とお話ししていきながら、その全てというわけにはいきませんが、ここはというような所を御相談いただきながら、必要がありましたら、観光といいますのはうちの観光政策課だけではなく、全庁的な分野で御協力いただいて進めていくものと思っておりますので、農林サイドでありますとか、県土のお力も借りつつ整備を進めていければと思っております。

## 岡田委員

是非トータルで徳島県をプロデュースするという感覚を持ってやっていただかないと。あえて広域交流対策特別委員会で話を振っているんですけども、やはり観光だけで考えてもらったって、観光のおっしゃったように誘客するメインのイベントを考えるのが観光政策ですという話になってくるし、道路は道路で安全を監視するのが道路の仕事ですという話になってくる。農林は農林で山を守って、自然を守っていくのが農林の仕事ですというように、それぞれの立場でそれぞれの主とする役割があつての話なんですけれども、でもその主とする役割がトータルに働かなかつたら一つも向上していかないし、前進していくこともないし、魅力が増していくことはないと思う。魅力を増やそう、光を輝かそうとするんだったら、よくいつもサテライトオフィスの大南さんが、手を加えないといけない、好きだけでは駄目だと、すてきにしなかつたら人は寄ってこない。そのすてきにするには、やっぱり手を加えないといけないという話をよくされていますけれども、手を加える、どう加えるんだというところが、何もせんかつたら去年に比べて13パーセント落ち込んだという話に現れてきているのかなと思います。

もう一つは、宿泊者数だけでカウントされているので、泊まっていない人の数が入っていないというところも出てこようと思うんです。泊まってもらったら経済効果は倍増するし、泊まらずにビジットだけでも、お土産買ってもらったり御飯食べてもらったり、いろいろ活用してもらうことで十分効果はあるんですけども、滞在してもらって徳島を十分楽しんでもらうためには、やはり好きだけじゃなく、すてきに変えていく方法をこれから本気で考えなかつたら、徳島県、47位からなかなか上がっていくことがないのではないかと、今ずっと皆さんの説明聞いてて思ったので、あえて苦言を言っています。本当に47位

で危機感を持っている、全員持たれていると思うけど、その方法を皆さん探されているのも当然だと思うけど、もう一つ皆さんにお願いしたいのは、やっぱり外を見てもらって、自分たちの県だけで考えない。もっと出張を増やしてもらっても私はいいと思うんです。皆さんの仕事の兼ね合いもあるので、余り言ったらあれなんですけれども、私の個人的な考えとしては、やはり皆さんがそれぞれ経験を積んだことを行政に反映させてもらって、それぞれの知恵を持ち込んでもらうことが徳島県の更なる進歩につながるんじゃないかと思うので、これからの取組として是非真摯に考えてもらって、それぞれの人たちが持たれている力を100倍、1,000倍出してもらったら、もっと活性化するんじゃないかと思うんですけれども、いかがですか。

#### 新居観光政策課長

岡田委員から、エールともとれる大きな御指摘を頂いたものと思っております。好きをすてきに変えるためにはどんどん手を加えていかなければということ、それから私たち県の職員が、徳島県の観光をプロデュースしていく立場でものを考えていかなければならないということ、本当に重要な御示唆を頂いたものと思っております。

私自身の考えでございますが、徳島県庁のよさは、小さな県でございますけれども、その分横の連携がとりやすい環境にあるところだと思っております。観光というのは、先ほどお話にありましたように、私どもだけでなく、今日ここに座っていらっしゃる各部の皆様のお力を借りて進めていくものだと思っておりますので、これまで以上に各部連携させていただきまして、観光徳島をプロデュースできるように、手を加えていけるように、ほかの県の観光のいいところも盗みながらやっていきたいと思っておりますので、どうか引き続き御指導いただければと思います。

#### 岡田委員

是非お願いしたいといえますか、しなかったら徳島県は終わりますよじゃないけど、本当に危機感を持って取り組んでもらいたいと思っておりますので、あえて質問させてもらってます。徳島の将来ビジョンを見据えてもらって、是非取り組んでもらえたらなということでよろしくお願いしたいと。よろしくお願いしたいといえますか、みんなで頑張っていかなかったら絶対無理だと思うので。ただ、皆さん連携しますと毎回おっしゃるんですけど、本当に連携してるところを見たことがないんで、本当にきついことを言うんですけど、本当に連携してやってもらわなかったら、それぞれの部署の知恵を出してやってもらわなかったら、外国人、1,700万人ぐらいで4万人しかきてないんだから。それだけ徳島県にきてもらえてないという現実があって、じゃあ徳島県の外国人の目標はというと、ものすごくハードルが低く設定されているので、1割も2割も設定を増やせるような取組を真剣に考えてもらいたいと思っております。外国の人、確かに個人旅行でたくさん泊まりに来るようにはなっています。徳島市内のホテルでも、外国人の個人ツアーの方も見かけるようにはなりましたが、大阪、東京の数とは全然比べ物にならないので、そこらあたりはもっと危機感を持って。それか、外国人の方にきてもらわなくても、県内だけで経済発展できるという取組をするならするで逆にいいと思うので、方針を決めてそれに取り組んでもらう、それが戦略だと思うので、戦略を立てて一つずつ積み重ねていって、克服してもらって、

挑戦してもらって、是非徳島が輝ける県になるようにお願いしたいと思いますが、部長、何かコメントありますか。

#### 七條政策創造部長

ただいま岡田委員から、本当に貴重な、本当に大局的な視点に立った、また危機感を持った御質問を頂きまして、本当にありがとうございます。

我々も思いは同じでございまして、徳島の本当の発展のために観光はもちろん大切でございますし、徳島の発信力を高めていくということは、これからの徳島にとっては欠かせないものと考えております。県といたしましては観光部門、農林のブランド部門、それから県土の歩道の話もございました交通部門、そういった部門も入りまして、昨年度から対外発信統括本部というのを設置して、県庁挙げて取組を進めているところでございます。そういった中で、委員御指摘のように、得てして各課ごとの動きになりがちなんですけど、そこは横串で情報交換しながら、情報共有を図りながら、それぞれの取組を最大化していくため、そういった点に注目しつつ、同じ予算を付けてやっても、一緒にやることによって最大の効果が発揮できるような取組を県としては今後とも進めてまいります。連携という言葉は本当に何回も使われます。過去には連携して取り組むというのもなかなか言葉倒れというところもございましたけれども、最近では国の地方創生も横串という観点から、そういう先駆的な取組につきましては、各部だけではできないような状況になっておりますので、これから地方創生総合戦略の中に位置付けた事業とかを推進していく中で、各部署がチームを組んでやっているという気持ちを持って取り組んでいかなければならないと思っています。委員お話のとおり、我々としましても、そういった総合力を発揮した取組を今後進めていきまして、徳島の観光を含めた発信がブランド戦略も含めてできますように、職員一同努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 井川委員

先ほどもおっしゃっていましたが、観光客というか宿泊者数が全国でも悪いとか、これからの二次交通が非常に不便であるとか、これからの課題として岡田委員がおっしゃるとおり、頑張っていたきたいと思っておりますのでございます。

取りあえず観光客を集めるためには、やはり観光バスであるとか、団体客をどう捉えていくかであると思います。この間も淡路島に行ってきたら、たこせんべいとか線香とかあるんですけど、どこの施設に行っても観光バスがどんどん入って、車も止めて見ていただいて、食事とか観光なんかできる所もあったりして、淡路島はもともとすごい施設もたくさんあるんですけど、行く所行く所で観光客を止めておけるというか、そういう取組もしているみたいですから、徳島もせっかく来るお客さんがいるんだったら、これをどうやって引き止めるかということで、やはり拠点づくりが大切なんじゃないかと考えます。私もこの間、12月7日ですか、一般質問でマリンピア沖洲のにぎわい拠点づくりということを質問させていただきました。知事からふ頭用地の積極的な利用転換を図り、民間の資金やノウハウを活用して食の提供や県産品の販売を行うにぎわい拠点づくりを推進すると、非常に力強い御答弁を頂いたところでありますが、私も質問しながらよく分からないところがあったので、このにぎわい拠点というのはマリンピアのどの辺に考えられているのか、

ちょっと教えていただきたいんですが。

来島港湾空港経営室長

ただいま井川委員から、先日の一般質問に絡んで、いわゆるマリンピア沖洲の新たなにぎわい拠点づくりの場所についての御質問を頂きました。

マリンピア沖洲については、現在売却可能な用地は全て売却済みになっております。しかし、マリンピア沖洲の沖洲マリンターミナルの周辺の港湾貨物の荷さばき地とか、船舶の乗降旅客のために使用する、いわゆる港湾計画上のふ頭用地の一部につきましては、新たな利活用が可能な部分もあると考えられることから、積極的な利用転換を図ることにより、用地を確保したいと考えております。

井川委員

ふ頭用地ということでございますが、何か聞くところによると、ふ頭用地を使うといういろいろな難しい面もあるということだったんですが、利用転換を図るということで、今後どのような手続を行っていくのか教えていただきたい。それと、先ほども言ったんですけど、民間の資金やノウハウを利用するという話をなさっておりましたが、どのように考えているのか、もうちょっと具体的な話が聞きたいと思います。

あともう一つ、食の提供や県産品の販売等ということでございますが、これもどのようなことを考えているのか、どんな施設を考えているのか、もうちょっと踏み込んだところを教えていただきたいと思います。

来島港湾空港経営室長

井川委員から、何点か御質問を頂きました。順次お答えしてまいります。

まず一点目、ふ頭用地の利用転換を図る上で今後どのような手続が必要なのかということでございます。ふ頭用地を飲食の提供とか物品の販売等を行うにぎわい拠点施設の用地として利活用する場合には、港湾計画上の位置付けをふ頭用地から交流厚生用地に変更する必要があります。今後、港湾計画の変更に向け、国土交通省など関係機関との協議を進め、直ちに検討を開始したいと考えております。

二点目、民間資金のノウハウを活用するというのは具体的にどういうことかということでございます。この具体的な民間資金やノウハウの活用については、現時点ではまだ決めておりません。ただ、県が所有する用地を、例えば公募により民間事業者に貸し付ける方法なども含めて、今後実際に利用される方々の視点に立って、より良質なサービスを提供できるよう、しっかりと検討していきたいと考えております。

最後に、このにぎわい拠点の施設について、具体的にどのようなものをイメージしているのかという御質問でございました。内容といたしましては、徳島の新鮮な農産物を飲食できる飲食店、一次産品や加工品、藍染め商品などのいわゆる土産物を購入できる物販店、観光情報やイベント情報などを入手できる観光案内、これらの機能を併せ持った施設を考えているところでございます。

井川委員

とにかく、マリナーミナルの辺りに造るということで、具体的なあれはないんですが、今の高速船が着く辺りにそういう施設を造るということでございます。すぐ隣に、この間できた耐震強化岸壁ですか、何かオーシャンフェリーの新造船が4隻できてそこに泊まる、しかもかなり大きいということで、今の津田岸壁では回転ができませんから、耐震岸壁を使って……。とにかくかなり大きい船が来るということで、人も増えると思います。多分平成30年か31年にインターチェンジもできるんですよ。正に徳島のというか、四国の東の玄関口という形にマリナーミナル、マリンピアがなると思われま。せつかく人がそれだけ集まるんですから、何とかうまく利用して、きてくれた人がせめて飯でも食べて、徳島の土産を買って帰ってくれる、やっぱりそういう施設が必要じゃないかと思ひます。それで、このオーシャンフェリーとの取組はどのように考へているのか、ちょっとそれも教えていただきたいと思ひます。

#### 森運輸政策課長

マリンピアにおけますオーシャンフェリーとの取組ということでござひます。

先ほど委員からもお話ござひましたけれども、オーシャンフェリーにつきましては、現在、新造船の建造中と聞いてござひます。新聞等でも報道ござひましたけれども、新造船第1船につきましては、来年の1月明けにマリンピア沖洲へ就航、運航開始ということでござひます。その後、残りの船につきましても順次新造船へ切り替へて、4船全てがマリンピア沖洲へ寄港する予定でござひます。

#### 井川委員

何かよそで聞いたんですけれども、木のない所には鳥も止まらんといいですか、砂漠に鳥は止まりようがないと。やはりどこか木がなければ、拠点があれば観光客もとどまってくれないと思ひます。そういう意味で、マリンピア沖洲というのが四国の玄関口、海と陸との玄関口になると思ひます。ですから、是非とも観光客がそこで止まってもらえるような拠点づくり、立派なとまでは申しませんが、人でにぎわっていただけるような拠点を是非ともお造りいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

#### 中山委員

何点か質問させていただきたいと思ひます。

先ほど来、四国の玄関口という話が出ておりましたが、昭和の時代は少なくとも我が小松島が四国の玄関口でありました。今は見る影もなく衰退の一途をたどっている状況ですが、小松島を愛する者としては断じてこのままの状態にしておくのは忍びないと思ひまして、いろんな提案をさせていただいております。その中でも、やはり港町小松島と云へば、今、重点港湾に指定されております赤石港、その利活用をもっともっと精力的にしていかななくてはいけないのではないかと考へております。ちょうど昨年9月の一般質問におきましても、コンテナターミナルの利用促進ということで質問したところ、知事から、コンテナ船の大型化にいち早く対応するため、徳島小松島港赤石地区を新たな国際物流の拠点として位置付け、荷主に対する助成制度の創設や荷役機械使用料の減免等を実施するとともに、全庁挙げてコンテナターミナルの利用促進を図ってきた結果、コンテナ貨物の取扱量

が去年、前年比で約16パーセント増の利用があり、今後も利用促進に向けて取り組むという答弁を頂きました。取扱量の目標を平成26年度の1万2,000TEUから、30年度には1万7,000TEUに設定して鋭意取り組んでいただいていると思います。

その結果、今議会の知事の所信表明の中で、長<sup>しのこー</sup>錦商船株式会社が運航するコンテナ船1便について、12月4日、本県に寄港する便から釜山を経由し、中国の天津、大連まで延伸されるとともに、約2.5倍の規模となる過去最大のコンテナ船が徳島小松島港に寄港することが決定したという非常に明るいニュースが飛び込んでまいりました。このようなことを受けて、新たな便の拡大を視野に入れていただきたいんですが、まず、このことによってどのような効果を期待しているのか、また、これを契機にもっとほかの路線、航路を増やしていくべきではないかと思えますけれども、その辺についてのお考えを聞かせていただきたいと思えます。

### 森運輸政策課長

ただいま委員から、赤石岸壁を利用しますコンテナ船のうち1隻につきまして、本年12月4日から釜山行きの航路が中国へ延伸した、その効果について御質問を頂いてございます。

今回、12月4日から長<sup>しのこー</sup>錦海運が運航いたしておりますコンテナ船、これにつきましては、従来日本から釜山へ行っていたものが航路を延伸いたしまして、中国の大連、天津へ就航する運びとなったところでございます。これによります効果といたしましては、まず、これまで徳島県におけるコンテナ貨物の最大の貿易相手国でありました中国と直接結ばれたということがございます。これによりまして、荷主企業様の経費の節減、また輸送時間が短縮されるものと考えてございます。具体的には、これまで釜山経由で約12日ほどかかっておりました輸送時間が、直行の便となりましたことにより6日ほどに短縮できるということがございます。こういったものが具体的な効果ではなかろうかと考えてございまして、本県経済の活性化にもつながるものと期待しているところでございます。

また、今後のコンテナ貨物の輸送増に向けた取組についてでございます。先ほど委員からお話しございましたけれども、これまでも荷主様、船会社様に対しましていろいろな助成制度の創設、あるいは関税用の手続を簡素化する区域の指定などを行ったところでございます。今年度におきましても、新たに国際定期コンテナ航路を開設した船会社に対しまして、係船料の半額を減免する制度を設けたところでございます。今後ともこういう戦略的な仕組みを創造する中で、ポートセールスに積極的に取り組みまして、新たな航路の開設、あるいは貨物の増加につなげてまいりたいと考えてございます。

### 中山委員

12日が6日、半分に短縮されるということで、非常に効果が期待されるわけですが、貨物がなかったら船はこないと言われております。これは小松島だけの問題ではなくて、徳島県下の経済の底上げにつながると思えますので、是非ともブランドの農林水産業の皆様との協力、また経済の発展のためにコンテナ量を増やす、輸出をもっと増やすように、せつかくのこの効果を得られるような取組をしっかりとっていただきたいと思えます。

もう一点、ちょうど同じ質問の中で豪華客船、飛鳥Ⅱとか、毎年いろんな豪華客船が小

松島港、赤石港に入船していただいているのですが、今年は特にダイヤモンドプリンセスが8月13日に寄港しました。それに対してしっかりと準備をして、おもてなしもして、毎年きてくださいねという願いもしました。小松島の商工会議所等もいろんな準備をして、乗員のお客さんが徳島県はもとより、小松島にも上陸してお金を落としてくれるのかなど期待をしていた、当然期待するわけですが、いろんな食材等お土産物も用意して、テントも構えてしていたそうですが、なかなか思ったほどの成果が上がらなかったと聞きます。その辺のところをもし分析されていまして、ちょっと教えていただきたいと思えます。

森運輸政策課長

本年、初寄港いたしましたダイヤモンドプリンセスによる県内への波及効果についての御質問でございます。

ダイヤモンドプリンセスにつきましては、委員からお話ございましたけれども、今年8月13日に英国船籍ということで、徳島県への初寄港を果たしたところでございます。この初寄港に際しましては、乗客約2,600名の方に徳島県へおいでいただきまして、そのうち寄港観光オプションということで、徳島県内の主な観光地、例えば鳴門の渦潮でありますとか祖谷のかずら橋などに行かれた方が約700名いらっしゃったとお聞きしてございます。これらの方々が県内においでいただいたことによります観光施設の利用料、あるいは飲食していただければその飲食代というような形で、県内へ観光消費が行き渡ったのではなかろうかと考えているところでございます。

中山委員

利用客で2,600人ということですが、その船を動かしている人も加えたら、恐らく4,000人近い人がその一つの船に乗っていると。もういろんな人、市内からも人が見に来てたんですけれども、本当にマンションがそのまま移動しているかのような大きい船だとびっくりして、こんな船見たことないと。当然そんな船はなかなか見る機会ないんでしょうが、せっかくのチャンスです。4,000人の人がもしちょっとでも買ってくれたら、経済の活性化につながると思えます。これは来年も引き続き赤石港にきてくれるんでしょうか。

森運輸政策課長

ダイヤモンドプリンセスの来年度の寄港予定ということで御質問いただきました。

ダイヤモンドプリンセスにつきましては、現在、来年度も同じ8月13日に徳島小松島港の赤石港へ寄港する予定ということで承知しているところでございます。

中山委員

非常に有り難いことで、また来年も同じようにきてくれるということです。今回、いろいろ至らないところとか反省点があったと思えますので、その辺を踏まえて、小松島市ともしっかりと連携して、次はもっと経済の底上げにつながるような努力をしていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。意気込みだけ聞かせてください。

森運輸政策課長

ただいま委員から、地元小松島への経済波及効果が起こるような取組をとということで御質問いただきました。

今回のダイヤモンドプリンセス初寄港につきましては、国内の旅行代理店のチャーター便ということでございましたが、来年度の寄港につきましては、船会社が直接運航すると聞いております。乗船客、今年度につきましては、ほとんどが日本人客ということでございましたけれども、来年度におきましては、若干外国人のお客様が增えるのではないかと考えているところでございます。今年度おもてなしをした中で、様々な問題点と申しますか、課題も浮かび上がったところでございます。今年度の反省点をしっかり捉まえまして、来年度にはそれを生かして、地元小松島にも経済波及効果があるように取組を進めてまいりたいと考えてございます。

中山委員

是非お願いしたいと思えます。

先ほど来JRの話が出ていましたので、この際ちょっと観光政策課長にお願いをしたいと思えます。今小松島はバスもありますけど、バスはだんだん縮小されておまして、JR牟岐線が唯一の公共交通機関となっております。当然、小松島、南小松島駅で降りるんですけども、駅のトイレが非常に自然に近いトイレでありまして、ぼっちゃんトイレと言うんですか、まだくみ取り式のトイレなわけです。市の駅のトイレがそんなのでは、小松島にきてまずトイレを使った日本のお客さんもそうですが、外国人の人も、まだこんなトイレがあるということで名物にするのもいいですけども、やはり衛生上余りよくないと思えますので、その辺の整備も促していくべきじゃないかと思えますが、いかがでしょうか。

岡本交通戦略課長

中山委員より、南小松島駅のお手洗いのことで御質問いただいております。

JR四国さんにおかれましては、計画的に駅舎の改築にも取り組まれていると承知をしております。今頂いたお話を踏まえまして、JR四国さん、また小松島市さんとも協議というか、お話をさせていただければと思っております。

中山委員

是非とも早急に検討していただきたい。何を置いても小松島の玄関、顔ですので、玄関がそんなに不潔ではちょっと話にならないから。来るはずの観光客も離れていくと思えますので、早急に考えていただきたいと思えます。

最後にとくしまマラソン、無事、私も喜多委員長も、また須見議員も、少なくとも私の知る限り3名は4月の24日エントリーできました。ただ予想外だったのが、僕、前日にちょうど忘年会があつて、二次会の途中でもう帰らないといけないからと言って帰って、10分前からインターネット、RUNNETにつないで待って、30分ぐらいかかったんですけども、無事とれてよかったです。それですぐに終わるのかなと思ったら、次の日の11時半ぐらいいまでいけたみたいですね。これは予想されていた結果なんでしょうか。今後、2万人に拡充していくということでしっかり応援もしているんですが、1万5,000人、1万4,000

人弱でそんなに時間がかかっては……。今のマラソンというのはどこも1時間とか2時間ぐらいで定員がいっぱいになるのに、これで2万人大丈夫かなとちょっと思ったので、その辺のところどうでしょうか。

玉田にぎわいづくり課長

今、中山委員から、とくしまマラソンの応募状況について御質問を頂いたところでございます。

とくしまマラソン2016のインターネット受付につきましては、12月8日の午後10時から先着順による受付を開始いたしまして、翌9日、水曜日の午前11時39分に定員に達したと行ったところでございます。委員からお話がありましたように、前回、2015大会は28分で定員に達しましたが、今回は結果としては13時間余りということで、これは私どもとしてもなかなか予想ができなかったところではございます。その原因につきましていろいろ調べてみましたが、まずは定員が増加したと行ったところが一番大きな理由と考えております。それからもう一点、エントリーの受付を業者のほうでやっておりますけれども、こちらに確認しましたところ、募集定員の拡大に伴いまして参加料の決済システムが集中したので、システムを保護するために処理スピードを調整したと行ったことも確認しております。こういったような理由によりまして、応募時間が拡大されたと考えております。

中山委員

想定内だったらいいんですけど、2万人といたらこれからまだ5,000人増える。増やしたけど募集人員に達しなかったでは話にならないので、いろんなことを聞いております。例えば、ちょっと9,000円が高いのではないかとということも聞いておりますので、そんな意見をちゃんと分析して次につながるように。あと去年同様、はな・はる・フェスタは同時開催されるんですか。

玉田にぎわいづくり課長

今、はな・はる・フェスタとの同時開催について御質問いただきました。

次回のとくしまマラソン2016につきましては、平成28年4月24日の開催ということで、はな・はる・フェスタとは別の日に単独開催することにいたしております。

中山委員

去年かおとしも言ったんですけども、せっかくとくしまマラソンで県外から、また海外枠が200人ということで、徳島にきていただける観光客がいるにもかかわらず、前夜祭、後夜祭という努力もされておりますけれども、それだけでは何かちょっと物足りない感じがあると思うんです。はな・はる・フェスタとかいろんなほかのイベントと併せて開催したら、より徳島の魅力が発信できるのではないかと考えておりましたが、残念ながら単独開催ということを知ったので、前夜祭、後夜祭の内容を盛りだくさんにして納得していただいて、また次もきたいと思えるような大会にしていくべきではないかと思うんですが、その辺のところは大丈夫でしょうか。

玉田にぎわいづくり課長

ただいま中山委員から、単独開催ということで、にぎわいの創出について御質問を頂きました。

前日のイベントにつきましても、はな・はる・フェスタと同時開催しておりました時と比べて集客が落ちることのないように、いろんな工夫を凝らしまして、多くの方に御来場いただけるように努力してまいりたいと考えております。

中山委員

くれぐれもとくしまマラソンはつまらないと言われることのないように、またきたいと思っただけのような大会になるように、しっかりと努力していただきたいと要望して終わります。

喜多委員長

午餐のため休憩いたします。(12時12分)

喜多委員長

再開します。(13時02分)

藤田委員

それでは、私も午前中の山田委員、中山委員の質問に続いて訪日外国人、いわゆるインバウンドについて質問をさせていただきたいと思います。

現政権が2014年の成長戦略の一環として、訪日外国人を2020年には2,000万人にするという目標を掲げておりましたが、観光庁が先日発表した2015年1月から10月の訪日外国人旅行者数は、前年度同期比48.2パーセント増の1,631万6,900人で、通年で過去最高だった14年の1,341万3,467人を更新したということで、長官の記者会見でも、年間では1,900万台に到達する見込み。前倒しで2,000万人に達する可能性が高いということで、訪日外国人3,000万人を見据えた対策と検討をという報道がなされたわけではありますが、国全体の動向と四国全体の状況はどうなのか。また、先ほどの山田委員に対する答弁の中にもありましたが、徳島県、香川県、愛媛県、高知県の個々の状況はどうなのか教えていただきたいと思います。

藪下国際戦略課長

今、委員から、四国の他の3県についてのお話を頂きました。

これにつきまして、取りあえず昨年度、平成26年度のお話をさせていただきますと、徳島県が3万5,940人でございました。これに対しまして香川県が14万2,710人、愛媛県が6万4,120人、高知県が3万8,590人という数字でございまして、トータルしますと四国4県で28万1,360人でございます。これにつきましては確定値でございまして。

本年1月から9月までの数字は、国の観光庁から速報値ということで出てきているところでございます。午前中にも触れさせていただきましたが、徳島県につきましては4万1,610人、香川県が15万7,070人、愛媛県が7万2,630人、高知県が4万8,950人でございま

して、トータル32万260人という数字が国から発表されている直近の数字でございます。

#### 藤田委員

直近、そして昨年度通年ということでも、お隣の香川県、そして愛媛県、高知県はよく似ている数字なんですけど、特に香川県とものすごく格差がある。関西国際空港から人がきているんだったら距離的にも同じような状況です。ここの要因はどういうふうに分析をされておりますか。

#### 藪下国際戦略課長

確とした理由と言いますか、推測の域は出ないかも分かりませんが、現在、香川県につきましては高松空港に海外からの直行便ということで、ソウル、上海、台北たいぺいからそれぞれ国際便がございまして、ソウルについては週3便、上海につきましては週4便、台北たいぺいにつきましては週4便でございます。また、愛媛県につきましては松山空港ということで、ソウルから週3便、上海から週2便、直行便がございまして。本県は関西国際空港に近いということもございまして、現在のところ直行便がないということもございまして。直行便があると県内に宿泊しやすい行程とかも組みやすい部分がございますし、そういった点で有利に働いているところがあるのではないかと推測されます。

#### 藤田委員

一つのハード的な部分で、先ほども申しましたように、関西国際空港からの距離的なものというのは徳島県も香川県もよく似ているということで、直行便のあるなしというのは非常に大きいことだろうなど。その課題解決を図るために今回の空港ターミナルの拡張、整備をされていくということなんですけど、同時に、新未来「創造」とくしま行動計画の中では、県内への外国人延べ宿泊者数を平成27年度で5万人、先ほども言うておりましたが、28年度で6万人、29年度で7万人、30年度で8万人という目標数値を設定しておりますが、具体的にどのような戦略を立てているのか。そして、この目標において空港ターミナルの整備がどのような影響を持つのかお伺いをいたします。

#### 藪下国際戦略課長

今、委員からもございましたように、私ども、外国人の延べ宿泊者数につきましては、平成27年の5万人をベースに毎年1万人ずつということで、平成30年には8万人、さらには平成32年、すなわちオリンピック、パラリンピックの年には10万人。これは平成25年が3万2,000人ぐらいでございまして、その当時、国が平成25年と対比して平成32年には倍増ということで2,000万人という目標を掲げておりました。それに対しまして、本県につきましては平成32年には10万人と、当時の約3倍という高めの目標設定を掲げさせていただいております。現在も一生懸命取り組んでいるところでございます。例えば、午前中にもお話ししました無料Wi-Fiでありますとか、多言語表記の拡充整備といった受入環境整備、それから観光プロモーションにつきましても国、地域の特徴を考慮した効果的なプロモーションを心掛けております。また、四国4県と連携して香港の観光見本市に出展するなど、広域での取組についても取り組んでいるところでございます。こういったこと

をベースに、来年度にはもっと加速して誘客の拡大をということで、先ほども申しましたとおり、海外の状況とかに直接影響を受けるものではございますけれども、そういったことになってもしピーターとして日本を、徳島を選んでいただけるよう、多くの外国人の方が訪れていただけるように徳島の魅力を発信してまいりたいと考え、取り組んでいるところでございます。

今後空港が整備されますと、国際航空便の発着とかの調整もつきやすい、それから海外に対してもプロモーションしていけるということもございます。何より海外も空港の発着については調整が必要でございます。こちらだけの調整ではいけないので、こういった部分での融通が利きやすいというか調整がしやすい面も今後出てくると思いますので、インバウンド担当としましては非常に追い風になるのではないかと考えているところでございます。

藤田委員

それではちょっと方向性を変えて、その訪日外国人の消費動向というか、一人当たりの消費額、データが出ている直近のもので結構ですから、通年でどれぐらいなんですか。

藪下国際戦略課長

外国人旅行者の経済効果と申しますか消費につきましては、観光庁が訪日外国人消費動向調査という調査を行っております、これも公表されているところでございます。直近のデータで申しますと、先ほどの外国人宿泊者数と同じで9月まで出ております。3月までの第1四半期につきましては7,066億円、4月から6月までの第2四半期で8,887億円、第3四半期に当たります7月から9月まで、ここで1兆円を超えまして1兆9億円となっており、1月から9月までで2兆5,962億円という数字が公表されました。これにつきましては、昨年の平成26年の同じ時期が1兆4,673億円でございますので、約76.9パーセントの伸びが示されていると承っております。

一人当たりにつきましては割戻しがちょっと難しいんですが、例えば、9月までの本県の延べ宿泊者数が4万1,610人、日本全体が4,916万人ぐらいですので本県は0.08パーセントに当たります。これを単純に掛けていきますと、県内では一人当たり大体5万円ぐらいの消費となります。もう一度申しますと、先ほど1月から9月までで2兆5,962億円という全国の数字がございましたが、これに0.08を掛けますと約20億8,000万円でございます。この20億8,000万円を、先ほど申しました1月から9月までの徳島への宿泊者数4万1,610人で割りますと、一人当たり5万469円、約5万円を宿泊者の方が消費された試算になります。

藤田委員

一人当たり約5万円。年間幾らでしたか、徳島県に来るのが。

藪下国際戦略課長

この9月までの数字でございますが、年間4万1,610人ということでございます。

藤田委員

経済規模的には、1万人増やすごとに5億円ぐらい経済規模が増えていくという考えでよろしいですか。

藪下国際戦略課長

今の数字を基にしますと、おっしゃるとおり、1万人増えると約5億円の加算といえますが、上乘せがあるのではないかとこのところでございます。

藤田委員

平成30年までに約8万人、今が4万人だから4万人ぐらい増える。そうすると約20億円ぐらいの経済効果、これはそのままでは駄目なんだろうけど、結構増えていくというのは事実なんです。

私の地元の西部観光圏、ここでも脇町のうだつの町並みであるとか剣山、大歩危小歩危、祖谷などの各地で訪日外国人が非常に増えているということを知っていますが、現状どのようになっているのか、これも教えていただきたいと思います。

藪下国際戦略課長

にし阿波観光圏、2市2町の直接の全体の数字については、ちょっと手元に資料がないものですから新聞報道でございますが、三好のほうが多分今一番県内で海外からの誘客に取り組まれている所でございます。毎年この主要なホテル5社の実績が公表されているわけでございます。この数字を述べますと、昨年、2014年、この5社で6,186人の海外からのお客様を受入れという報道がございました。その前年は3,872名という数字でございましたので、こちらのほうでも1年間で約1.6倍の増加があったと聞いているところでございます。

藤田委員

倍まではいなくても倍近い状況で増えているということなんです。にし阿波観光圏、今の新未来「創造」とくしま行動計画では、平成30年に1万人という数値目標を設定しているんですかね。

藪下国際戦略課長

西阿波におけます外国人延べ宿泊者数につきましては、委員おっしゃるとおり、平成30年に1万人という数字になっております。

藤田委員

その数値目標を掲げているわけですが、よく観光地とかに行ったら、先ほど岡田委員もいろいろと質問をされておりましたが、受入環境の整備がまだまだ不十分。この受入環境の整備、今後どのような対策をとっていくのか。先ほども答弁いただいたと思いますが、特に西阿波についてどういう対策をとっているのかお尋ねします。

## 藪下国際戦略課長

受入環境の整備について、特ににし阿波観光圏についてということでございます。

ちょっと重ねての発言になりますけれども、Wi-Fiの整備でありますとか、多言語表記の整備ということは先ほど述べさせていただきました。西阿波のほうからも、この事業につきまして多くの申請を頂いております、これまでも御自分たちで整備に携わってこられたというところがございますが、今のところ、私どもの助成金なども使用していただいて、更に加速していただいていると認識しております。

## 藤田委員

受入環境の整備ということで、訪日外国人の満足度を高めることはリピーターの増加促進にもつながってくると思うので、早期にそこら辺の整備もしっかりとやっていただきたいと思うわけであります。

最後に、訪日外国人について、今の国の動向や、2,000万人から3,000万人に目標が上方修正されるということ、そしてそれを獲得することによって経済効果も上がっているということなどが分かりました。その一つの大きなツールということで、空港の整備の必要性というのもある程度見えてきたわけであります。私が住みます県西部地域、私の家から高松空港まで約40分もあれば、雪とかそういう状況のときは別ですが、40分もあれば十分に高速使わずに一般道で行けるんですけど、高松空港でLCC2社が就航しているんです。LCCってよく座席が狭くてということを知って、先般、どういうものか一度利用してみようと思って乗ったわけですが、僕の体でも何とか座席内には収まるんです。運賃が東京まで片道約8,000円弱。パンフレットを見ていたら、何とかセールという時期には片道3,000円なんですよね。どういう人が乗っているのかなと思ったら、帰りの便では訪日外国人の方とか若い方が非常に多くて、東京から香川県、高松空港に入ってくるのに、やっぱりLCCを使っている訪日外国人というのは非常に多いということが分かりました。我々にとっても、東京に行くのに非常に安価で便利な交通手段ということが一つ分かったわけですが、これから徳島阿波おどり空港の整備を行う上で、LCCというのでも検討の<sup>そ</sup>遡上に上がっているのか。また、この空港の整備に対する全体的な意気込みとその思いを岡本交通戦略課長、言える部分で結構ですから、それだけ聞いて終わりにします。

## 岡本交通戦略課長

藤田委員より、LCCの誘致、また徳島阿波おどり空港の機能強化に向けた決意ということで御質問を頂いたところでございます。

まず、LCCの状況というところで御説明をさせていただければと存じます。高松空港におきましては、ジェットスター・ジャパンというJALの子会社が成田との間で1日2便、また、高松と上海の間を運行しております春秋航空のグループ会社でございます春秋日本という会社が1日1便という形で運行してございまして、恐らくですけども、上海便を利用したお客さんが、またその春秋日本の国内LCCを使って東京のほうに乗り継がれて行くと、そういう利用のされ方もされているのではないかと推測してございます。

徳島阿波おどり空港へのLCCの誘致というところでございますが、空港の機能強化ということで進めてございます。もう一つ駐機スポットが有効に活用できるという状況にも

なってまいりますので、国際チャーター便もそうでございますし、国内線につきましても充実の可能性が大きく広がってくるというところでございます。LCCも含めて、路線でありますとかチャーター便、そういったところで利便性が向上するように、多くのお客様にきていただけるように取り組んでまいりたいと考えてございます。

#### 岩丸委員

午前中、山田委員、岡田委員との質疑の中で出てきた言葉で、デスティネーションキャンペーンというのがあったと思うんですが、私自身、情報不足というか知識不足というようなことがあって、多分これまでもいろいろそういった事業については話があったんだろうと思うんですが、一つも頭に残ってなかったわけでありまして。今年の5月だったと思うんですが、県の観光協会の清重理事長さんとお話をさせていただく機会があって、その中で、平成29年度にこの四国がデスティネーションキャンペーンの対象地になるんだと。県ともタイアップして観光協会も力を入れて今後取り組んでいかなければならないというようなお話を聞いて、それから若干興味を持って見てたわけなんですけど、このデスティネーションキャンペーンについて、少し詳しく御説明いただけたらと思います。

#### 新居観光政策課長

岩丸委員から、デスティネーションキャンペーンについての御質問を頂いたところでございます。

デスティネーションキャンペーン、DCというふうに我々も略して申しておりますが、JRグループ6社とその該当の自治体、それから地元の観光事業者が共同で実施する大型観光キャンペーンでございます。3か月間、年に4回機会がございますが、JR6社がその地域へのお客様の送客を全力を挙げてPRしていくというものでございます。本県の場合、直近では平成15年、もう14年も前になりますけれども、平成15年の10月から12月の秋の期間に、当時は四国観光立県推進協議会というのがございまして、その協議会が主体となって実施したものでございます。年に4回、春、夏、秋、それぞれ4月から6月、7月から9月、10月から12月というところで、四国のように共同でやる自治体もあれば、単県で実施する所もございます。冬の1月から3月につきましてはずっと京都市さんが実施するということで、自治体におきましては残りの3回がチャンスなんですけど、私どもの四国につきましても、四国ツーリズム創造機構が中心になりまして名乗りを上げ、平成29年度の4月から6月の春の期間でございますが、やっとキャンペーンを実施することが今年の3月31日に決定されました。それを受けまして、今準備ということで四国4県それぞれが来年、再来年に向けての商品造成等について検討しているところでございます。

#### 岩丸委員

大分古い歴史があるんですかね、これって。四国としては2回目ですか。それと、JR6社が中心ということなんですけど、選定するのに何か基準というか、例えば、うちの県選んでくれとかいう手順というのはあるんですか。

#### 新居観光政策課長

デスティネーションキャンペーンの歴史ということになりますが、第1回は1978年と伺っております。四国といたしましては、実は過去4回実績がございまして、最初は平成元年の9月から12月、次が平成7年の3月から6月、平成9年は11月から1月、そして直近が平成15年の10月から12月ということで、4回実施されたところでございます。

開催地域をどういうふうにするのかということですが、JRグループの中で決定がなされるようで、そのエントリーにつきましても、私どもの場合でありますれば、JR四国がJRグループの中で手を挙げて、そこで選出されるというふうに伺っております。

#### 岩丸委員

1978年からといったら大方四十年近く。年4か所が選ばれるんですが、なぜか必ず1月から3月は京都市に決まっていると。あそこは放っておいたって観光客きそうだからいいじゃないかと思うんだけど、そんなこと言っても始まらないのですけれども、それで四国は四つでくださいという調子。先月、先々月ですか、会派で長崎に行った時に、来年の秋に長崎県がやるということで、今もうほとんど準備も出来上がっているというふうにお聞きをしました。四国4県でやらないといけないというのは仕方ないのかなと思うのですけれども、四国4県の中にもやっぱりあると思うし、先ほど来お話を聞いておりますと、徳島県の宿泊者数が全国一少ないということで、香川県、愛媛県、高知県に埋もれてしまわないように是非頑張ってもらいたい。来年、再来年に向けての大きなチャンスだと思いますし、私自身、今まで4回もこんなのがあったということを知らなかったもので、どんどん県民にもPRしていただきたいと思います。それへ向けて、多分来年は準備も含めていろんな企画をしていかないといけないんだろうと思うんですが、予算的にはどの程度見積もっているのか。そこら辺、分かるところがあったら教えていただきたい。

#### 新居観光政策課長

デスティネーションキャンペーンにつきましては2年後が本番でございますけれども、先ほども申しましたとおり、来年の5月11日に全国販売促進会議というのがございます。全国から700人の旅行エージェントを集めまして、まずここで四国の商品についてのPRをさせていただいて、それから全国に向けて、次の年の本番に向けてどんどん情報発信をしていくということで、今それに向けて四国4県、それとJR四国が中心になって話し合いを続けているところでございます。徳島が四国のほかの3県に負けないようにということで、私どもも一生懸命市町村さんとお声掛けをしながら新たな商品でありますとか、今ある商品の磨き上げということをさせていただいているところでございます。最近観光というのは各地方でしのぎを削っておりますので、どういった特徴を出すのかということが一番大事なところだと思っております。特に、四国は4県でDCをやるということで、委員がおっしゃるとおり3県がライバルでございます。ここを何とか負けずに頑張っていかなければいけないと思っております。

また、JR四国からも徳島にかなり強いエールを頂いております。11月30日にJR四国から、DCの期間中に土讃線に新たな観光列車を走らせたいという発表がなされたところでございます。この観光列車、現在四国で言いますれば愛媛県の伊予灘ものがたりということで、お食事をしながら景色を楽しむ列車、有名なのは九州で走っております七つ星

とかですけれども、この伊予灘ものがたりが非常に好評だということで、JR四国といたしましては、是非次回のDCのときに土讃線の琴平、大歩危間に観光列車を入れたいということを発表していただいたところでございます。我々もこのチャンス、是非ものにしていきたいと思っております。中身につきましては、またこれから地元の方々と御相談してということでございますが、そういった意味合いで、JR四国も力を入れていただいておりますので、我々も負けないように頑張っていきたいと思っております。

#### 岩丸委員

しっかりとやっていただきたいと思っております。いろんな機会にJT Bの方とかにお話を聞きますと、この頃観光って、いわゆる観光地を見るよりは食と買物ってよくお聞きをするわけなんです。基本はやっぱり観光地に行くというのがほとんどだろうと思うんですけれども、そういった傾向が大分見えてきているということで、さっきちょっとお話が出ていましたけれども、地域の個性というか、特に徳島と言ったらこれ食べるんだという食のほうで、県内料理協会とか板前さんの世界もあると思うんで、そこら辺とも十分やってもらって、徳島ならではの食というのを開発していただけたら非常に有り難いと思うんですけれども、そういったことも含めて、しっかりと取り組んでいただけたらと思っております。

それと、ちょうど北島委員がおいでたらよかったんだけど、先般、一昨日ですか、廣瀬というオールジャパンのラグビー選手と薫田<sup>くんだ</sup>という東芝の総監督が見えて、ラグビー教室をした後でラグビートークをしました。いよいよ2019年にラグビーワールドカップが開催されるということで、知事も是非誘致を進めていきたいというようなことをおっしゃってくださったんですけれども、最後のほう、今年のイングランドのワールドカップに向けて4年前からずっと取組をやってきたという話の後で、2019年のワールドカップの、特にキャンプの誘致に向けての話がありました。薫田<sup>くんだ</sup>さんから最低必要なのはこんなこととかあったんですが、相当ハードルが高いなと思いつながり聞いていた。ホテルから練習場までは大体15分から20分ぐらいで、ホテルの近辺にいろいろ練習する所、ちょうど隣のホテルの1階の全フロアが3部屋ぐらい要るとか、そこで全部マットを敷いて練習ができるようにとか、体育館かなというようなイメージで聞いていたんですけれども、当然ホテルになったら何箇月間か貸切りやし、ベッドも全部入れ替えないといけないとか非常にハードルが高い。全国のラグビー協会のいろんな方針もまだ定かではないというふうに県のラグビー協会の北島会長さんも申しておって、ちょっとはつきりした工程も分からないということなんですけれども、考えたら、もう2019年が本大会です。誘致に向けてのいろんな工程があると思うんですが、現在、ある程度こういう段取りで行くんだというのが分かっているとところがあったら教えていただけたらと思っております。

#### 新居観光政策課長

ラグビーに関しては、県民スポーツ課が積極的に誘致活動をしております。また、先般もイギリスのほうに視察に行つて、いろいろと情報収集していると伺っております。

岩丸委員がおっしゃるとおり、宿泊施設、それから練習場の問題等いろいろあるというように伺っておりますが、鋭意働き掛けをしているということは伺っているところでございます。

岩丸委員

県民スポーツ課ということ。私自身も若干ラグビーの経験があったり、この度非常に熱が高まっているのでいい機会だなとも思っていますので、北島会長ともども、そういったことに向けて今後取り組んでいきたいと思っております。どちらにしても少しでもいろんな方にきていただいて、いろんな取組ができたらと思っておりますので、今後とも取組をよろしくお願いいたします。

長尾委員

午前中から観光客の宿泊者数が議論されておりますが、全部最下位。これ以上下がることはないんで、しっかり頑張ってもらって、一つでも二つでも順位を上げてもらえればと思います。

そういう中で、11月28日、29日にアスティで行われた「秋の阿波おどり大絵巻」、これは従来のINAKA博覧会に加えて、大鳴門橋30周年を記念して行われたイベントでございます。私も提案させていただいた関係で拝見させていただきました。この「秋の阿波おどり」について県としてどういうふうに評価しているのか、手短にお答えください。

新居観光政策課長

「秋の阿波おどり」に関する御質問を頂いたところでございます。

先ほど御紹介ございましたとおり、去る11月28日、29日の2日間、「阿波おどり大絵巻2015」と題しまして、県と県観光協会が共同で開催させていただきました。2日間で1万8,000人のお客様に御来場いただきまして、また、きていただきました県外の連の方、8連でございましたが、今回初めてのプログラムであります阿波踊り伝承塾や交流会、そして阿波踊りコンテストにおきましてもすばらしい演技で、本当に徳島の有名連との深いきずなが結べたものと思っております。また観光バスにつきましても、2日間で20台のバスにきていただきました。前広にPRさせていただきましたので去年の倍以上と、本当にたくさんの方にきていただけたし、「秋の阿波おどり」を情報発信できたのではないかと考えております。

長尾委員

阿波踊りは夏のお盆の阿波踊り、春のはな・はる・フェスタの阿波踊り、そして通年の阿波踊りという考え方の下、今回「秋の阿波おどり」が開催されて、それに対する評価が今の説明でございます。

その上で、来年の秋の開催についてはどういうふうに考えているのかお聞きをしたいと思います。

新居観光政策課長

長尾委員から、来年の「秋の阿波おどり」をどうするのかという御質問でございます。

基本的には県の観光協会が続けてきた事業でございます。また来年度も一緒にやれたらいいなと思っております。どちらにいたしましても来年の事業でございますので、予算

をお認めいただくということになると思いますけれども、私といたしましては、今年の成果を更に広げていきまして、観光資源の目玉にしていきたいと考えております。

#### 長尾委員

阿波踊りの連長さんとも意見交換をさせていただきましたが、秋は県がやると腹を決めてやるのが大事だと思います。夏は徳島市が頑張るわけだから、秋は県が頑張る、予算を来年もちゃんと付けると。大鳴門橋開通30周年だからやるとかいうんじゃないで、観光協会はI N A K A博をやるわけだから、是非今年以上の予算を付けて、「秋の阿波おどり」を定着させるのが大事だと思います。

今回、今おっしゃったように県外のバスがかなりきて、努力の跡が見えたわけですが、ただ残念だったのは、玄関入っていても従来のI N A K A博覧会と同じ。「秋の阿波おどり」という雰囲気伝わってこない。音楽も別に聞こえないし、玄関の自動扉入ったとしても、やっぱり従来のI N A K A博覧会のイメージ。もちろん会場の中は阿波踊りをやっているわけだけど、外はI N A K A博覧会、いろんな物産を売ったりというのと変わらない。連長さんなんかがおっしゃるには、県外からバスが20台来る。そういった人たちは、あのロビーに入る前からよしこの音楽が聞こえてきて、入ったら浴衣の踊り子さんたちが出迎えて、終わったらまた見送ってくれる。連長やそういう人と一緒に写真も撮って帰りたい。だけど、帰りは何も無いというのでは、まだまだI N A K A博を超えていない。大言壮語じゃないけど、せっかく「阿波おどり大絵巻」と言っているわけですから、努力の跡もうかがえるわけですから、是非来年は「秋の阿波おどり大絵巻」2年目じゃないけど、定着をさせるということが大事だと思います。今年だけ大鳴門橋開通30周年で予算付けた。それで来年なしでは、何のためにやったんだということになる。福島県の復興の象徴のあのハワイアンセンターは、1年間で100万人以上来る。泊まるわけだ、100万人が。阿波踊りは夏の4日間で120万人から130万人来るけど全部泊まるわけじゃない。宿泊をもっと増やそうとするならば、夏も春も秋もそして冬もと、そういう形で取り組んでいくことが大事じゃないかと。ハワイアンセンターは1年365日毎日踊っている。そういう中で、宿泊者数を確保しているわけですから、少なくとも「秋の阿波おどり」は定着をさせるように、取組をお願いしておきたいと思います。

そこで関連してお聞きするんですが、先ほど、高松空港の海外との直行便であるとかLCCとかの議論がございました。今後徳島阿波おどり空港も充実させると、お金も入れるという中で、去年チャーター便は何便だったのか。今年チャーター便は何便だったのか。来年の予定は現段階で何便分かっているのか。

#### 岡本交通戦略課長

長尾委員より、チャーター便の状況ということで御質問いただいたところでございます。

昨年度のチャーター便の実績でございますが、国際チャーター便につきましては、国内線の充実といったものがございまして、国際チャーター便の駐機時間を確保するのが難しいという状況が生じておった関係で、0というところでございます。国内のチャーター便につきましては、静岡に本社がございましてフジドリームエアラインズさんのほうで沖縄方面、久米島、宮古島に2往復という実績がございまして。

今年度の状況についても、国際チャーター便につきましては、先ほど申し上げた状況がございますので、これまでのところは0でございますけれども、年末年始に全日空さんのほうでハワイのホノルルに飛ぶチャーター便の運航が予定をされているところでございます。これ以外に、国内のチャーター便でございますけれども、フジドリームエアラインズのほうで、6月に稚内に2ツアー、また長野県の松本に1便、11月に奄美大島という状況でございます。

今後の予定というところでございますけれども、平成29年度に供用開始を目指して取り組んでおります機能強化、こういったことも見据えながら、積極的にエアポートセールスをしているところでございます。ただ、引き続き国内線の状況というものの、充実していることに変わりはないので、なかなかいろんな制約があるというところでございます。そういった条件もございまして、いろんなもの、今後の動きも見据えながら、あらゆる可能性を探ってまいりたいと思っております。

#### 長尾委員

要領よく言ってくれんと。外国便でだよ。要は去年は0、今年も0、来年も0なんだろう。はっきり言ってくれよ。

#### 岡本交通戦略課長

インバウンドのものということでございます。徳島阿波おどり空港に2時間半駐機スポットが空いている必要がございますけれども、国内線の充実によりまして、その駐機できる時間の確保が難しいという状況でございますので、インバウンドのお客さんを乗せたチャーター便というのは昨年度、今年度実績がないという状況でございます。

#### 長尾委員

要領よく答えてください。去年も今年も来年も0だと、そう言ってくれば分かる話なんで。要は、中国の方、アジアの方がたくさん日本にこられている。いろんな経済情勢あったとしても、アジアは中間層というのが増えており、見通しとしては増えると。我々日本人は従来と感覚も違ってきているけれど、お正月は大変心ときめく季節だ。特にアジア人、中国人等にとっては春節、旧正月に旅行に行くという中で、経済研究所の方も言っておられたけれども、いわゆる冬の阿波踊り、日本では通常ニッパチとって一番景気が悪いわけだから、その春節、2月にアジアの人に徳島の阿波踊りを。厳寒だけどアスティの中だったらできるわけで、外でやれというわけじゃない。そういう冬の阿波踊り、例えばチャーター便を上海や北京から、上海には県職員もいるわけだから、誘致するというようなことを、観光政策課と今答弁したあなたとがよく連携をとって考えたらどうかと思うんだけど、どうでしょう。

#### 岡本交通戦略課長

長尾委員より、徳島が誇る目玉のコンテンツ、阿波踊りを活用したツアーなどによる国際チャーター便の誘致を図ってはということで御提案を頂いたところでございます。

阿波踊り、非常に魅力のあるものでございまして、香港からのチャーター便がきた時に

も、徳島阿波おどり空港で阿波踊りを披露してお出迎えということをさせていただきました。旅行会社、また観光客の皆様から大変好評を博したと承知をしております。そういった阿波踊りも含めまして、徳島県が持っておりますいろんな観光資源も積極的にPRをさせていただく。各国によってお客さんが動く時期はいろいろあるかと思えます。そういったところもよく考えながら、観光部局とも連携をさせていただいて、国際チャーター便の誘致、なかなか空港の機能強化まではいろんな制約があるところがございますけれども、あらゆる可能性を探って、チャーター便の誘致を積極的に進めてまいりたいと思っております。

長尾委員

今の答弁を受けて、新居観光政策課長はどういうふうに思っているのか。

新居観光政策課長

私どもにとりましては、インバウンドが増えまして、お客様が増えるというのは、本当に待ちに待った状況でございますので、是非ともチャーター便あるいは定期便が徳島阿波おどり空港に入ってきていただけることを心待ちにしているところでございます。

長尾委員

是非、岡本交通戦略課長と新居観光政策課長が連携をとって。徳島阿波おどり空港にお金をかけて投資をするわけです。2019年、2020年、2021年と国際スポーツ大会等も続くわけでありますから、せっかくお金をかけてもチャーター便も何もないなんていうことがないように、今から御努力をお願いしておきたいと思えます。

そこで、私の一般質問の答弁で海外のメディアを誘致するという話がありました。今のところ海外メディアの誘致、さらにはもっと言うとアジアのメディアの誘致の見通しはあるのでしょうか。

藪下国際戦略課長

先般の一般質問の際に長尾委員から御質問いただき、四国4県で広域でとか、本県独自の海外からのファムの誘致、メディアの招へいといったものについて御答弁させていただいたところです。

これにつきましては、四国4県におきまして、香港とかに海外出展するなどといった取組もしておりますし、今後も積極的に取り組んでまいりたいと思っております。本県でも、海外からのメディアファムという形でございますけれども、招へいいたしまして、県内の観光地、食といったものを積極的に発信してまいりたいと思っておりますし、今もやっておりますが、今後も積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

長尾委員

是非、海外に知ってもらおう意味でも海外のメディア、徳島の阿波踊りだけじゃなくて、県内の観光所にきてもらってまず見てもらう。旅行関係者に見てもらうことがまず大事だ

と思います。先ほど新居課長のお話にもありましたが、今回の「秋の阿波おどり」も事前の関係者への根回しとかがあって成果が出ているわけでありますから、是非努力をお願いしておきたいと思います。

次に、先ほど岩丸委員からラグビーの話がありました。徳島県はここ数年、サッカーで言えば徳島ヴォルティスに大変力を入れてきた。県民も大変期待をして、J1に昇格した時は大変な喜びもあった。しかしJ2に降格して大変がくつときた。J1の時は鳴門陸上競技場も座席数を大変増やした。大変投資もした。今J2に落ちて成績も振るわず、監督も交代し、県民のサッカー熱も何となく下がりぎみになっている。そういう中で、あのサッカー場の座席数は幾らで、最大の時の観客者数は幾らで、去年の平均は幾らだったか教えてもらいたい。

玉田にぎわいづくり課長

今、長尾委員から、ポカリスウェットスタジアムの収容人員、その他何点か御質問いただきました。

ポカリスウェットスタジアムの収容人員につきましては、1万9,680人ということになっております。それから、これまでの1試合当たりの最大来場者数でございますけれども、2014シーズンの最終戦、ガンバ大阪戦の1万7,274人が過去最大の来場者数として記録をされているところでございます。また、この2015シーズンの平均観客者数につきましては、ホームゲームでございますけれども、5,019人というところでございます。

長尾委員

座席数の1万9,680に対して、昨年の平均観客者数は4分の1程度の5,019人。こういう状況の中で、今後、この競技場を利用してもらい、多くの人にきてもらうという意味について、県はこの徳島ヴォルティスに対してどういう考えを持っているのか、どういうことで臨もうとしているのか教えていただきたい。

玉田にぎわいづくり課長

徳島ヴォルティスの試合を活用したにぎわいづくりといった御質問を頂いたところでございます。

私どもといたしましては、J1昇格の機運醸成によります県内のにぎわいの創出が重要と考えておりまして、今年度におきましても、各ホームタウンとの連携によりますにぎわいの創出、J1昇格への機運醸成に向けた応援イベント、それからJクラブやその他関係自治体と連携した県外サポーター向けの観光物産PRを実施してきたところでございます。残念ながら、2015シーズンではJ1復帰は果たせなかったものの、来年は先ほど委員からお話がありましたように、監督も交代して新体制になるといったところでございます。引き続き、ホームタウンはもとより、県内全市町村との協力体制を強化いたしまして、県民一丸となってJ1復帰の機運を高めて、スタジアムのにぎわいを本県の活性化につなげていけるよう、県民の皆様と共に応援してまいりたいと考えております。

長尾委員

是非支援をしていただきたいと思います。

次に、もう一方のスポーツチーム、いわゆる徳島インディゴソックス、野球ですが、この蔵本球場の駐車場も整備をして、お金を入れている。徳島インディゴソックスの蔵本球場の定員と、最もよく入った時の観客者数と、去年1年間の平均は幾らか。

喜多委員長

小休します。(14時05分)

喜多委員長

再開します。(14時05分)

玉田にぎわいづくり課長

ただいま長尾委員から、インディゴソックスに係ります蔵本球場の収容人員、その他何点か御質問いただいております。

蔵本球場の収容人員につきましては、ちょっと私のほうで持っている資料がございません。大変申し訳ございません。観客者数につきましては、昨年の徳島インディゴソックスの1試合の平均は363人というところでございます。これまでの最大動員数につきましても、ただいまちょっと手元に数字がございません。大変申し訳ございません。

長尾委員

県の姿勢が今の答弁で十分分かるわけだ。徳島ヴォルティスには力を入れているけど徳島インディゴソックスのほうは関心を持ってないということが、今の答弁で明々白々。要は、観光・プロスポーツなどによる交流促進うんぬんと言うんだから、当課としてはそういうところをちゃんと掌握して、すぐに答えられるようにしておくのが当たり前だと思う。サッカーだけ答えて野球は答えられないようでは……。数の問題もあるかもしれないけれども、やっぱり県としてきちっと野球のほうも把握する。JAバンク徳島スタジアムなんてお金をもらって命名権までやっているぐらいだから、しっかりとこちらのほうも応援していくことが必要だと思います。この辺の応援については、さっきのサッカー同様どういうふうに考えていますか。

玉田にぎわいづくり課長

徳島インディゴソックスに対する支援でございますけれども、今年度につきましても、県の広報媒体によるPR、優秀選手の表彰、それからファン層の拡大ということで、小中学生のグループ招待、無料招待を行いますとともに、施設使用料の減免、ホームラン賞の提供ということを行ってまいりました。来年度につきましてもサッカー同様、球場を活用したにぎわい創出ができるようにしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

長尾委員

あなたは、インディゴソックスの試合を見に行ったことがありますか。

玉田にぎわいづくり課長

今、私が試合を見に行ったことがあるかとの御質問でございます。はい、ございます。

長尾委員

聞いて安心しました。行ってなかったらめちゃくちゃ言われてたよ。いずれにしても本県を代表する二つのスポーツ、もちろんほかのスポーツ、ラグビー、バスケット、バレーなどいろいろあるけれども、知事は体育協会の会長もやっているわけだし、それを中心に県組織で全てのスポーツ、国体最下位を脱するためにも、是非しっかり頑張ってくださいと思います。

最後に、今、国は一億総活躍社会ということを行っています。女性や障がい者の方々にも社会参加をして頑張ってくださいと、こういうことでございます。そういう中で、現在、障がい者の方々の社会参加を図るための移動手段として、身体障がい者の方の所有車に対する高速料金の割引制度というのがある。しかし、目の御不自由な視覚障がい者の高速道路料金の割引制度はない。目の御不自由な視覚障がいの方が高速を使って移動する場合は、タクシーであるとか、若しくは親しい方の車で移動するんだけど、そういう場合に割引制度はない。このことについてどう思われますか。

喜多委員長

小休します。(14時11分)

喜多委員長

再開します。(14時11分)

神野高規格道路課長

委員から、視覚障がい者に対する高速自動車の割引についてでございます。

お話ございましたように、事前に登録している障がい者に対する割引制度はございます。視覚障がい者に対する割引があるかないかということについては、申し訳ございません。ちょっと資料を持っておりません。

長尾委員

前段申し上げたとおり、一億総活躍社会で、全ての障がい者の方々に社会活動をやってもらえる環境を整えなくちゃいけないと思うわけでありまして。現状として、県には福祉バスというのがあって、運行は海部観光に委託している。例えば、県内の視覚障がい者団体がそのバスに20人乗車して、松山で会があるとかが他県に移動する。広域的な活動だね。その場合高速料金は誰が払うのかというと、乗っている20人が割って払う。視覚障がい者だから手を引く、案内する人が20人乗っているのだから全部で40人だ。しかし、視覚障がい者20人がそのバスの高速料金を割って払う。当然視覚障がい者の方は自分に付いてくれている方の分も含めて二人分払う。こういうことが現実なわけだ。そういう中で、この視覚障がい者の方々の高速料金の割引制度といったものを是非、なければ県が国に提言をしてもらいたいと思いますけどいかがでしょうか。

神野高規格道路課長

今、委員から、提言というか御意見を頂きました。

私のほうで十分理解できていないので申し訳ないんですけども、おっしゃいましたように、視覚障がい者に対する割引制度が全くないと。現実的には一緒にいらっしゃる方の分も含めて負担をしないといけないということで、非常に大きな負担になっている。何らかの救済措置がとれないのかというお話であろうかと思えます。そういうお話を頂きましたので、まずは現状の制度がどうなっているのかを十分調べさせていただいた上で、またNEXCOさんとも御相談をさせていただきたいと、このように思います。

長尾委員

御承知のとおり、今議会の開会日に知事は、障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例というものを作って、来年4月から施行するとおっしゃいました。さきの目の御不自由な方が盲導犬と共に、バックするトラックに跳ねられてお亡くなりになるという痛ましい事故、このことについて、知事はいち早く反応して、議会も反応して、国土交通省や警察庁に義務化を求められた。今回のこの条例の中にもそれを入れると、こういうことになったわけであります。したがって、こうした問題につきましても是非徳島県から。今回の条例は都道府県初、いわゆる手話言語条例というのは鳥取県が第1号で、神奈川県だとか群馬県とかがやったりしているけれども、本県のこの条例は言語条例も含む形で、聴覚障がい者のみならず、そういう障がい者の方々の正に情報支援ということをするわけです。国の一億総活躍社会の理念と、県が都道府県初の条例を来年4月から施行するのに合わせて是非。全ての障がい者と知事はおっしゃったわけだから、聴覚障がい者、身体障がい者は高速の割引制度があるけれども視覚障がい者はない。それをどうするかということをして是非一回県内の視覚障がい者の方々、協会関係者に取材をしてもらって、県として国に提言していただきたい。このことを重ねて強く要望して終わります。

喜多委員長

ほかに質疑ございませんか。

(「なし」と言う者あり)

それでは、以上で質疑を終わります。

これをもって、広域交流対策特別委員会を閉会いたします。(14時17分)